科目名	楽式論	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	嶋田　久美				
クラス名	（AD・P・V・PM コース対象）				

授業目的と到達目標

・基本的な楽曲の形式とその構造に関する知識を習得する。
・形式ごとの特色を理解し、自身の演奏や制作活動とのつながりを考え、説明する力を身につける。

授業概要

・前期：基本的な楽曲の形式とその構造を学ぶ。
・後期：自分が関心のある音楽を取り上げ、その形式（形態）の特徴について考察し、その成果をプレゼンテーションする。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

・毎回の授業で小課題、ないしリアクションペーパーの作成を実施するので、積極的に取り組むこと。
・配布資料と参考書、および自身のノートを活用し、前回までの講義の流れを振り返っておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
試験（前期）	30
小課題（前期）	20
プレゼンテーション（後期）	35
リアクションペーパー（後期）	15

教科書

教科書1	適宜、資料配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	新版 楽式論		
出版社名	音楽之友社	著者名	石桁真礼生
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

受講生の関心や理解度に応じて、適宜、進度を調整する。

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス：一年の授業計画・成績評価の基準の説明、音楽に関するアンケート
2	動機、小楽節、大楽節、1 部形式
3	2 部形式
4	3 部形式①
5	3 部形式②
6	複合 3 部形式①
7	複合 3 部形式②
8	ロンド形式①
9	ロンド形式②
10	ロンド形式③
11	ソナタ形式①
12	ソナタ形式②
13	ソナタ形式③
14	前期まとめ、および試験
15	試験の講評、および応用楽式について
16	後期ガイダンス①：音楽のリサーチ方法について
17	後期ガイダンス②：グループワーク、およびプレゼンテーション資料の作成要領の説明
18	グループワーク①：取り上げる音楽に関する基本情報の収集
19	グループワーク②：取り上げる音楽の決定
20	グループワーク③：プレゼンテーションのテーマの推敲
21	グループワーク④：プレゼンテーション資料の作成
22	プレゼンテーション①：選定した音楽形式の検討、およびディスカッション
23	プレゼンテーション②：選定した音楽形式の検討、およびディスカッション
24	プレゼンテーション③：選定した音楽形式の検討、およびディスカッション
25	プレゼンテーション④：選定した音楽形式の検討、およびディスカッション
26	プレゼンテーション⑤：選定した音楽形式の検討、およびディスカッション
27	プレゼンテーション⑥：選定した音楽形式の検討、およびディスカッション
28	プレゼンテーション⑦：選定した音楽形式の検討、およびディスカッション
29	プレゼンテーション⑧：選定した音楽形式の検討、およびディスカッション
30	総括

科目名	楽式論	年次	2	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	河合　摂子				
クラス名	（W・PM コース対象）				

授業目的と到達目標

音楽を作ったり演奏するのには、曲の構成の理解が重要である。楽曲の動機、小楽節、大楽節等の基礎知識から、調判定、和音分析、重要な形式の細部の分析までの理解をすることを目標とする。その結果として演奏、指導にいかされるようにすることにつなげたい。

授業概要

前期は主に楽式の基礎学び、ピアノ作品を通して主な形式を分析をとおして学ぶ。後期はバロック作品、変奏曲等にも触れ、様々な楽器の作品の分析も行い、それをふまえての演奏も行う。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

テキストや、配布したプリント、楽譜を必ず持参し、授業内容をノート、楽譜に記入し、それをもとに自分で楽式分析を出来るようにする。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期授業内試験	40
後期授業内試験	40
授業に取り組む姿勢	20

教科書

教科書1	和声と楽式のアナリーゼ =バイエルからソナタアルバムまで=		
出版社名	音楽之友社	著者名	島岡 譲
教科書2	適宜配る楽譜やプリント		
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	バイエルピアノ教則本　op.101		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名2	ブルグミュラー25 の練習曲		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名3	ソナチネアルバム 1		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
演奏するのに大切な形式の授業です、流れをもった授業計画になっていますので、なるべく欠席、遅刻しないでください。出欠も成績に反映します。 後期の作品分析と演奏は特にしっかり取り組んでください。

教員実務経験
作曲家、ピアニスト、としての活動を通して、様々な時代の作品分析を行い、個々の演奏に役立てられるよう指導する。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	一年間の授業計画の説明と、楽式を学ぶための基礎知識の説明 動機、小楽節、大楽節、和音分析等を学ぶ。
2	2 部、3 部形式の基礎知識の説明① 作品を通しての楽式分析、和声分析
3	2 部、3 部形式の基礎知識の説明② 前回と違う形式の楽式分析、和声分析
4	複合 2、3 部形式の基礎知識の説明① 主に 2、3 部形式との違いを通して理解を深める
5	複合 3 部形式を作品を通して楽式分析をし、和声分析等を学ぶ。 数曲、分析をして、特徴をまとめる
6	ロンド形式の基礎知識の説明① 楽曲を例に楽式、テーマの展開、和声分析等学ぶ。
7	ロンド形式の楽式分析② 前回と違う時代の作曲家の作品を通して楽式分析等を学ぶ。
8	ロンド形式の楽式分析③ 受講生の発表をもとに質疑応答を通して、アドバイス、補足をおこない、ロンド形式をまとめる。
9	ソナタ形式の基礎知識の説明① ロンド形式との違いを説明し、楽式分析をするときのソナタ形式の特徴を学ぶ。
10	ソナタ形式の分析① 前回の基礎知識をもとに、短いソナタ形式を楽式、和声、テーマ等の分析を学ぶ。
11	ソナタ形式の分析② ソナチネ、ソナタアルバムのソナタ形式の楽式分析を学ぶ。
12	ソナタ形式の分析③ 有名な古典派の作曲家(ハイドン、モーツァルト、ベートーベン等)のソナタ形式の楽式分析、和声分析等を学ぶ。
13	変奏曲 変奏曲の基礎知識学び、楽式分析を学ぶ。
14	これまでの学んだ楽式を復習、補足をし、試験にむけての分析の仕方を習得する。
15	前期の楽式のまとめと授業内小試験
16	前期の復習と、バロック作品の音楽の形式について学ぶ。 対位作品へのアプローチの基礎知識を説明。
17	バロック作品の分析 短い作品を通して対位楽曲の楽式分析、和声分析等の説明
18	バロック作品の組曲の楽式分析①組曲のそれぞれの作品の楽式分析を説明。 楽式分析を通して組曲の魅力をさぐる。
19	フーガ①

	フーガの楽式分析の基礎知識を学ぶ。 インベンションの作品を通して楽式分析を説明
20	様々な編成の作品の分析① Duo の作品の分析、旋律楽器、ピアノの役割をふまえて特徴をさぐる
21	弦楽器とピアノの作品の分析 作品を聴いて楽式、和声、アンサンブルの作品の書法を学ぶ
22	管楽器とピアノの作品の分析 作品の楽式、和声、アンサンブルの作品の書法等を学ぶ
23	学生の専攻の楽器の作品を取り上げる。 その作品の楽式、和声等を説明、楽器の特性、楽譜の特性等を学ぶ
24	学生の専攻の楽器の作品を取り上げる。 作品の楽式、和声等を説明し、楽器の特性、作品の特性等を学ぶ
25	弦楽四重奏の作品をとりあげ、弦楽器ならではの作品の特徴や楽器の特性を学び、作品分析を行う
26	歌曲の作品をとりあげ、詞の取り扱い方や詞の世界観をどう音にしているのかを考え、作品分析や和声分析を行い、魅力に触れる
27	オーケストラ作品を取り上げ、オーケストラの楽器について、楽譜について学び、作品分析を行う。 オーケストレーションの特性から音色や響きの多彩さを学ぶ。
28	ブラスバンドの作品を取り上げ、ブラスバンドの楽器の特性や楽譜について、学び、作品分析を行う。 ブラスバンドの作品の魅力を楽譜を通して学ぶ。
29	近代、現代の作品の楽式の傾向と、楽式の変遷をとおして音楽史の流れ、作曲家の作風へのアプローチをする。
30	一年間の授業のまとめと後期授業内小試験

科目名	西洋音楽の歴史と理論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	嶋田　久美				
クラス名					

授業目的と到達目標

・西洋音楽史に関する基礎的な知識を習得する。
・時代ごとの音楽様式の特徴と歴史的背景を理解し、自身の演奏や制作活動とのつながりを考え、説明する力を身につける。

授業概要

・前期：古代ギリシア・ローマからバロック期までの音楽史の流れを学ぶ。
・後期：古典派から現代にいたるまでの音楽史の流れを学ぶ。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

・毎回の授業でリアクションペーパーの作成を実施するので、積極的に取り組むこと。
・配布資料と参考書、および自身のノートを活用し、前回までの講義の流れを振り返っておくこと。
・入門的なものでかまわないので、西洋音楽史に関する図書をあらかじめ通読しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
リアクションペーパー	50
期末レポート	50

教科書

教科書1	適宜、資料配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	決定版 はじめての音楽史		
出版社名	音楽之友社	著者名	片桐功ほか
参考書名2	音楽史を学ぶ		
出版社名	教育芸術社	著者名	久保田慶一編
参考書名3	グラウト/パリスカ 新西洋音楽史 上・中・下		
出版社名	音楽之友社	著者名	D.J. グラウト ＆ C.V. パリスカ
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
受講生の関心や理解度に応じて、適宜、進度を調整する。

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス：一年の授業計画・成績評価の基準・リアクションペーパーの作成要領の説明、音楽に関するアンケートの実施
2	西洋音楽とは
3	古代ギリシア・ローマ①
4	古代ギリシア・ローマ②
5	古代ギリシア・ローマ③
6	中世①
7	中世②
8	中世③
9	ルネサンス①
10	ルネサンス②
11	ルネサンス③
12	バロック①
13	バロック②
14	バロック③
15	バロック④
16	バロック⑤
17	バロック⑥
18	前古典派
19	ウィーン古典派①
20	ウィーン古典派②
21	ロマン派①
22	ロマン派②
23	ロマン派③
24	現代①
25	現代②
26	現代③
27	現代④
28	現代⑤
29	現代⑥
30	総括、および期末レポート作成要領の説明

科目名	日本音楽の歴史と理論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	出口　実紀				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本音楽について、まずは「知る」ことから始める。授業を通じて日本音楽の各種目についての基礎知識を学ぶとともに、建学精神の国際的視野にたっての展開にあたり、歴史や文化的背景も含めて日本伝統音楽の特徴を理解する。

授業概要

日本音楽の中の主要な種目（雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八など）をとりあげ、配布資料や視聴覚教材を使用して授業をおこなう。必要に応じて実際に楽器を使用し、音色や構造についても講義する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

学習期間中、日本音楽や和楽器に興味、関心を持ち、機会があれば実際に鑑賞するのが望ましい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常点（授業態度や取り組み姿勢）	10
授業内小レポート	10
授業内小テスト	80

教科書

教科書1	授業内でプリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	『日本音楽との出会い　日本音楽の歴史と理論』		
出版社名	東京堂出版	著者名	月溪恒子
参考書名2	『音楽史事典』		
出版社名	丸善出版	著者名	日本音楽学会（編）
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
出席が全体の3分の2に満たない場合は不可とします。 また授業では視聴覚教材を使用するため、授業中の私語は厳禁。騒がしい場合には退出してもらいます。 受講人数によっては、小テストを期末テスト、授業内小レポートを期末レポートへ変更する場合があります。 これについては 4 月授業開始時の履修登録人数に基づいて断し、授業内で再度お伝えします。

教員実務経験
日本音楽の研究者および演奏家として活動する教員の視点から、音楽だけに留まらず美術工芸、建築、文学といった様々な観点から日本音楽を多角的に捉える視野を修得させる。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	日本音楽の概論
3	日本音楽の時代区分と種目
4	雅楽
5	雅楽
6	雅楽
7	声明
8	声明
9	琵琶楽
10	琵琶楽
11	能・狂言
12	能・狂言
13	歌舞伎
14	歌舞伎
15	前期授業のまとめ
16	人形浄瑠璃（文楽）
17	人形浄瑠璃（文楽）
18	地歌（三味線音楽）
19	地歌（三味線音楽）
20	箏曲
21	箏曲
22	尺八
23	近・現代の音楽
24	近・現代の音楽
25	アイヌの音楽
26	沖縄の音楽
27	沖縄の音楽
28	民俗音楽
29	民俗音楽

30	後期授業のまとめ	

科目名	指揮法	年次	3	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	福永　吉宏				
クラス名	AD コース対象				

授業目的と到達目標

音楽作品を演奏する際、合奏者に指揮者として自分の音楽を伝える手段として、人間の本能的な体の動きを使い音楽の内容までを深く感じ取らすことを目的とする。単に指揮を振るテクニックを学ぶものではなく、個人の持つ人間性と音楽の知識の深さをいかに相手（合奏者）に伝えるかを目標とする。

授業概要

指揮者の在存する前、つまり合奏を行う時に、指揮者が必要となる音楽の作品から取り組むことになる。いわゆるバロック音楽の作品から古典派、ロマン派、そして近代までの作品を取り上げる。その際、指揮者として音楽作品を解釈し、自らが「分かった」と理解することを体験するようにする。
教員が指揮者としての経験を活かし、指揮法の様々な表現方法を修得させる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

音楽作品のもつ要素（テンポ、リズム、アーティキュレーション、ダイナミック、音色など）を学習し、自分なりの作品の解釈を指揮法なるもので表現する。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業への積極性、質疑応答への参加、試験を総合的に評価	100

教科書

教科書1	演奏の原理		
出版社名	シンフォニア出版	著者名	ハンス・ペーター・シュミッツ
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	授業の中で適宜指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	まずバロック音楽であるバッハやヘンデルの作品を中心に、モーツァルト、ベートーヴェンなどの作品を取り上げる。 バッハの管弦楽組曲を取りあげる。
2	バッハの管弦楽組曲を取りあげる。
3	バッハの管弦楽組曲を取りあげる。
4	バッハの管弦楽組曲を取りあげる。
5	ヴィヴァルディの合奏協奏曲「四季」を取りあげる。
6	ヴィヴァルディの合奏協奏曲「四季」を取りあげる。
7	ヴィヴァルディの合奏協奏曲「四季」を取りあげる。
8	モーツァルトの交響曲を取りあげる。
9	モーツァルトの交響曲を取りあげる。
10	モーツァルトの交響曲を取りあげる。
11	ベートーヴェンの交響曲を取りあげる。
12	ベートーヴェンの交響曲を取りあげる。
13	ベートーヴェンの交響曲を取りあげる。
14	ベートーヴェンの交響曲を取りあげる。
15	ベートーヴェンの交響曲を取りあげる。
16	ブラームス、シューベルトの作品からロマン派、近代への作品へと移り、最後はウィーンのワルツまで取り上げる。
17	シューベルトの交響曲を取りあげる。
18	シューベルトの交響曲を取りあげる。
19	シューベルトの交響曲を取りあげる。
20	ブラームスの交響曲を取りあげる。
21	ブラームスの交響曲を取りあげる。
22	ブラームスの交響曲を取りあげる。
23	ブラームスの交響曲を取りあげる。
24	ブラームスの交響曲を取りあげる。
25	ブラームスの交響曲を取りあげる。
26	ブラームスの交響曲を取りあげる。
27	ウィーンのワルツを取りあげる。
28	ウィーンのワルツを取りあげる。
29	ウィーンのワルツを取りあげる。
30	ウィーンのワルツを取りあげる。

科目名	指揮法	年次	3	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	高谷　光信				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽性豊かな表現をするための基本的な指揮法の習得を目的とする。
本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。
指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。

授業概要

実際に教職現場や社会人のコーラス、吹奏楽、オーケストラ等、指揮をする場面は多数あり、音楽を専門で勉強した学生には指揮する機会が訪れることが多い。合唱の指揮を主眼として実習を行い、その技法を通して必要な理論、知識を深め、実践力を養う。この授業では基本的なバトンテクニックを理解して、いかにして楽曲の指揮をして音楽的表現をしていくのかを追求する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

基本的な指揮技術の復習および、楽曲研究をすること。
教職課程履修学生は、中高教育実習での研究授業場面や卒業後の中高正規授業での指導場面を想定して、本科目の修得内容を活用しつつ、「中高教科の自主的教材研究」に主体的に取り組む。その際、当該教科の学習指導要領および教科書等を積極的に活用する。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業への積極的参加度	70
レポート	30

教科書

教科書1	教材および資料等のプリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ウクライナチェルニヒウ州立フィルハーモニー交響楽団　指揮者（2003ー現在） ウクライナ国際指揮者マスタークラス審査員（2010ー2021） 東京混声合唱団　指揮者（2007ー現在） J ルークスシンガーズ　音楽監督（2021ー現在） 一般社団法人日本ウクライナ音楽協会音楽協会　理事長（2022ー現在）			
授業計画（各回予定）			
授業回	授業内容		
1	第 1 回　はじめに （1）指揮について （2）指揮の必要性 （3）合唱と独唱・重唱の違いについて		
2	第 2 回　基本的な指揮の知識 （1）腕、手、指の動きについて （2）指揮棒について		
3	第 3 回　2 拍子・4 拍子と 3 拍子の振り方（基本形）		
4	第 4 回　2 拍子・4 拍子と 3 拍子の振り方（アウフタクトとニュアンス指示）		
5	第 5 回　6 拍子の振り方（基本形）		
6	第 6 回　6 拍子の振り方（アウフタクトとニュアンス指示）		
7	第 7 回　6 拍子以外の複合拍子の振り方（基本形）		
8	第 8 回　合唱の指揮について 息使い、フレーズの重要性について		
9	第 9 回　歌詞の発音と指示		
10	第 10 回　合唱指揮の実践		
11	第 11 回　テンポ、リズム、歌い出しの指示について		
12	第 12 回　各声部および伴奏とのバランス、伴奏者への指示について（基礎）		
13	第 13 回　各声部および伴奏とのバランス、伴奏者への指示について（応用）		
14	第 14 回　ニュアンス指示と左手の使い方（基礎/応用）		
15	第 15 回　　授業内レポート　及び　指揮法についてのまとめ		
16	第 16 回　はじめに （1）合奏指揮と合唱指揮における共通、相違点について （2）楽器の編成と指揮の関係について		
17	第 17 回　基本的な合奏指揮のための知識 （1）弦楽器について （2）管楽器について （3）打楽器について		
18	第 18 回　リタルダンド、分割を含む楽曲の指揮法（基礎）		
19	第 19 回　リタルダンド、分割を含む楽曲の指揮法（応用）		
20	第 20 回　フェルマータ、休符を含むリズムのある楽曲の指揮法（基礎）		

21	第 21 回　フェルマータ、休符を含むリズムのある楽曲の指揮法（応用）
22	第 22 回　合奏指揮について 合奏の編成規模について
23	第 23 回　各種楽曲の楽譜研究について 教育用楽器による編成の楽譜
24	第 24 回　吹奏楽の楽譜 管弦楽小編成の楽譜
25	第 25 回　合奏指揮の実践
26	第 26 回　教育用楽器による編成の楽曲指揮（基礎）
27	第 27 回　教育用楽器による編成の楽曲指揮（応用）
28	第 28 回　吹奏楽など小編成の楽曲指揮（基礎）
29	第 29 回　吹奏楽など小編成の楽曲指揮（応用）
30	第 30 回　まとめとテスト、レポート

科目名	邦楽1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	今藤　小希郎				
クラス名					

授業目的と到達目標
三味線音楽のジャンルの一つである長唄の唄と三味線を学ぶことで、音楽の世界観を広げる事を目的とし、長唄古典小曲の演奏を目標とする。

授業概要
授業一コマを前後半に分け唄と三味線をそれぞれ指導します。 基礎的な奏法から始め、古典小曲を数曲演奏できるように考えています。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
楽器を用いた演奏であるので三味線に触れる時間を多く作り、復習に重点を置いて練習すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
平常点	70
合同演奏会	30

教科書			
教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
はじめに撥・指すり・膝ゴムを購入。楽譜等はその都度プリントを配布。

教員実務経験
邦楽演奏家　京都・大阪 NHK 文化センター講師 邦楽演奏家としての舞台・指導経験を活かして、三味線・唄の演奏技術を指導します。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	長唄の概要解説、唄・三味線の基本解説。
2	練習曲（三味線）・松の緑（唄）
3	練習曲・松の緑
4	練習曲・松の緑
5	練習曲・松の緑
6	練習曲・松の緑
7	練習曲・松の緑
8	練習曲・松の緑
9	練習曲・松の緑
10	練習曲・松の緑
11	松の緑・末広狩
12	松の緑・末広狩
13	松の緑・末広狩
14	松の緑・末広狩
15	松の緑・末広狩
16	松の緑・末広狩
17	松の緑・末広狩
18	松の緑・末広狩
19	松の緑・末広狩
20	松の緑・末広狩
21	都鳥もしくは末広狩・小鍛冶
22	都鳥、末広狩・小鍛冶
23	都鳥、末広狩・小鍛冶
24	都鳥、末広狩・小鍛冶
25	都鳥、末広狩・小鍛冶
26	都鳥、末広狩・小鍛冶
27	都鳥、末広狩・小鍛冶
28	都鳥、末広狩・小鍛冶
29	都鳥、末広狩・小鍛冶
30	都鳥、末広狩・小鍛冶

科目名	邦楽1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	今藤　美治郎				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本の伝統楽器である三味線を、長唄というジャンルでその特徴を体験し、さらに長唄の曲を演奏する事で日本の伝統音楽を感じてもらいたい。松の緑、都鳥を演奏出来る様にする事を目標とする。

授業概要

対面の授業により三味線の持ち方、撥の持ち方に始まり、調弦の仕方、楽譜の読み方を教え、長唄の松の緑、都鳥を演奏出来る様に指導する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

成績評価方法・基準

種別	割合（%）

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	楽器の持ち方譜面の読み方を教え、調弦の仕方の後に練習曲をレッスンする。
2	練習曲のレッスン。
3	練習曲のレッスン。
4	練習曲のレッスン。
5	練習曲のレッスン。
6	練習曲のレッスン。
7	松の緑のレッスン。
8	松の緑のレッスン。
9	松の緑のレッスン。
10	松の緑のレッスン。
11	松の緑のレッスン。
12	松の緑のレッスン。
13	松の緑のレッスン。
14	松の緑のレッスン。
15	松の緑のレッスン。
16	松の緑のレッスン。
17	都鳥のレッスン。
18	都鳥のレッスン。
19	都鳥のレッスン。
20	都鳥のレッスン。
21	都鳥のレッスン。
22	都鳥のレッスン。
23	都鳥のレッスン。
24	都鳥のレッスン。
25	都鳥のレッスン。
26	都鳥のレッスン。
27	松の緑、都鳥の復習。
28	松の緑、都鳥の復習。
29	松の緑、都鳥の復習。
30	松の緑、都鳥の復習

科目名	邦楽1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	戸波　有香子				
クラス名	箏曲実技				

授業目的と到達目標

箏の基本的な知識や記譜法や演奏方法を学び、箏を演奏することにより日本の伝統音楽を体験する。
学校教育の場で箏を使った授業が出来ることを目標とする。

授業概要

前期はテキストや箏譜（縦譜）を用いて、箏の基礎知識や箏曲の基本的な演奏方法を学ぶ。また、チューナーを使っての正確な調絃での演奏をする。後期は演奏会の曲目を中心に演奏技法を習得し、年に一度行う演奏会では合奏を試みる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

箏の理解を進めるため、前期は復習を、後期は予習復習を授業以外の個人練習で行うこと。楽器は一年間自分専用の箏を使用します。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
実技試験、課題提出	40
授業や演奏会に取り組む姿勢	60

教科書

教科書1	「箏入門の為の小品集」		
出版社名	大日本家庭音楽会	著者名	吉崎克彦
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	必要に応じて適宜紹介する		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
箏・三絃・胡弓演奏家。箏・三絃・胡弓教授。 演奏家としての舞台での演奏経験や小学校教員としての経験を活かし、箏の奏法や表現方法、また教育現場で実践出来るよう指導する。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	箏の準備方法、箏の各部の名称、箏爪のあて方などの基礎を学ぶ 。
2	箏爪のあて方や楽譜の読み方を学ぶ 。
3	テキストを進めながら、箏の演奏に慣れる。
4	進度に合わせて様々な奏法を学ぶ。
5	様々な記譜法や奏法を学びながら教材を進める。
6	プリントや教材を使用しながら、進度に合わせて学習を進める。
7	プリントや教材を使用しながら、進度に合わせて学習を進める。
8	プリントや教材を使用しながら、進度に合わせて学習を進める。
9	プリントや教材を使用しながら、進度に合わせて学習を進める。
10	プリントや教材を使用しながら、進度に合わせて学習を進める。
11	試験曲の練習を始める。
12	試験曲を通して、奏法や表現方を学ぶ。
13	試験曲の練習を進める。
14	試験曲の練習を進める。
15	前期のまとめと実技試験を行う。
16	前期の復習から始める。
17	演奏会の曲の譜読みと奏法の確認にとりかかる。
18	演奏会の曲の練習を進める。
19	演奏会の曲の練習を進める。
20	パート毎の練習を始める。
21	パート毎の練習をする。
22	パート毎の練習をする。
23	パート毎の練習、合奏への課題に取り組む。
24	合奏練習を始める。
25	各々の課題に取り組みながら合奏練習を進める。
26	各々の課題に取り組みながら合奏練習を進める。
27	各々の課題に取り組みながら合奏練習を進める。
28	合奏練習を進める（合同演奏会となる場合があります）
29	テキストまたはプリントに取り組む。
30	後期のまとめ、レポート提出等で試験を行う。

科目名	邦楽1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	米村　鈴笙				
クラス名					

授業目的と到達目標
尺八を通して日本音楽の一端に触れ、和楽器の良さを体験出来るよう指導する。 その体験により日本伝統音楽についての理解を深めることを目標とする。

授業概要
まず前期では、練習曲を用いて尺八の基本的な吹奏技術（運指、正しい音の出し方など）を学び、後期には尺八の二重奏曲などが吹けるように指導する。 一年間の成果を演奏会において発表する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
授業を休まずに、根気良く練習すること。 毎日短時間でも楽器に触れることが望ましい。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業、演奏会への取り組み	80
実技試験	20

教科書

教科書1	授業内でプリントを配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項	
教員実務経験	
琴古流尺八演奏家	
授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	尺八の歴史、楽器の取り扱い方法について
2	楽器の正しい持ち方を学ぶ
3	楽譜の読み方を学ぶ
4	引き続き楽譜の読み方を学ぶ
5	息の使い方や音の出し方を練習する
6	乙音の練習
7	引き続き乙音を練習する
8	乙音を使って簡単な曲を練習する
9	引き続き乙音を使って簡単な曲を練習する
10	甲音の練習
11	引き続き甲音を練習する
12	甲音を使って簡単な曲を練習する
13	引き続き甲音を使って簡単な曲を練習する
14	乙音甲音を使って簡単な曲を練習する
15	引き続き乙音甲音を使って簡単な曲を練習する
16	前期の復習として授業中に簡単な実技試験を行う
17	前期の復習を行う
18	演奏会に向けての曲(尺八二重奏曲など)の練習を開始する
19	演奏会に向けての曲(尺八二重奏曲など)の唱譜を練習する
20	引き続き演奏会に向けての曲(尺八二重奏曲など)の唱譜を練習する
21	演奏会に向けての曲(尺八二重奏曲など)の１パートを練習する
22	引き続き演奏会に向けての曲(尺八二重奏曲など)の１パートを練習する
23	演奏会に向けての曲(尺八二重奏曲など)の２パートを練習する
24	引き続き演奏会に向けての曲(尺八二重奏曲など)の２パートを練習する
25	合奏練習を開始する
26	引き続き合奏練習を行う
27	繰り返し合奏練習を行う
28	繰り返し合奏練習を行う
29	演奏会で一年間の成果を発表する
30	一年間の授業のまとめと簡単な実技試験を行う

科目名	邦楽1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	志村　智恵子				
クラス名	箏曲実技				

授業目的と到達目標

箏（こと）を通して日本伝統音楽にふれ、音色の美しさや伝統音楽を知ることの必要性を感じてもらう。また基本的な奏法や簡単な歴史を学び、学校教育の場で箏を使った授業が出来るようになることを目標とする。

授業概要

《　対面授業　》前期は、教本やプリント等を用い、箏の基礎や簡単な歴史を学ぶ。また、チューナーを用いた正確な調絃方法を身に付け、「六段の調べ」（初段）が弾けるようにする。
後期は、演奏会へ向けての練習を中心に授業を行う。年に一度行う演奏会では合奏を試みる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

箏の素晴しさを理解するためには、少しでも楽器（箏）に慣れる必要がある為、授業中にのみ楽器に触れることにならないよう個人練習をすること。（一年間自分専用のお箏を使用します。）

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期後期試験	30
演奏会への参加	20
平常点（受講姿勢、提出物等）	50

教科書

教科書1	宮城道雄小曲集		
出版社名	邦楽社	著者名	宮城道雄
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
出席状態も成績の参考とする。実技試験、演奏会への参加は必須。

教員実務経験
箏、三絃演奏家 ： 生田流宮城社大師範 ・箏、三絃教授 ・演奏活動、コンクール審査員等の実技経験を活かし、基礎から舞台で合奏が来るようになるまでを指導する。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	爪のはめ方や座り方など演奏前の基礎から始める
2	練習曲により、爪のあて方、楽譜の読み方等を覚える
3	糸に慣れるよう練習曲を進める
4	押し手などの新しい奏法を取り入れて授業をすすめる
5	進度に合わせ、適宜、次の教材に学習をすすめる
6	簡単な合奏を試みる
7	プリント、楽譜を使用しながら糸に慣れる練習
8	進度に合わせ、適宜、次の教材をすすめる
9	進度に合わせ、適宜、次の教材学習をすすめる
10	進度に合わせ、適宜、次の教材に学習をすすめる
11	進度に合わせ、適宜、次の教材に学習をすすめる
12	試験曲の練習を始める
13	試験曲の奏法や曲想を学ぶ
14	試験曲の練習
15	試験曲の最終確認と実技試験を行う
16	前期の復習曲から始める
17	演奏会に向けて新しい曲の譜読みに入る
18	演奏会へ向けての練習
19	演奏会へ向けての練習
20	パートに分かれての練習
21	パートに分かれての練習
22	パートに分かれて練習
23	特に弾き難い部分を重点的に練習
24	合奏練習
25	合奏練習
26	合奏練習
27	合奏練習（演奏会本番となることもあり）
28	演奏会で演奏した曲の復習又は次の曲へ進む
29	十七絃体験、または前回の復習
30	一年を通しての試験、又はレポート提出

科目名	邦楽1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	今藤　長十郎				
クラス名					

授業目的と到達目標

日本音楽の理解と、少しでも日本人として、その良さを、三味線と言う日本独自の、特長的な楽器を通して感じてもらいたい。
まず初歩的な事をマスターしていく間に、その曲に込められた、日本的な音使いによる表現方法を学んでもらいたい。

授業概要

前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を練習曲から入りながら指導する。古典曲は「松の緑」を教え、どう弾くかをそのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。後期は、よりスムーズにメロディックに勘処の移行が出来るように、レベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

まじめに授業をうけ、遅刻をしない
くり返しけいこをする

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業	50
演奏会での成果　注)試験とみなす	50

教科書

教科書1	歌扇録（唄）三味線（赤譜）を直したもののコピーを渡す		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			

出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
今藤長十郎…長唄・今藤流家元一般社団法人長唄協会副会長。一昨年はウィーン楽友協会で自身の公演。昨年は10月に三回目のカーネギーホールで自身の公演。京都宮川町京おどりの作曲は 35 年間毎年手掛ける。他自身のリサイタルは 25 年間毎年開催。 他長唄協会での指導、NHK,国立劇場主催公演多数。 授業は自身の経験を踏まえて、本物の伝統音楽を伝えて行く事に心血を注いでいる。

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
2	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
3	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
4	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
5	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
6	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
7	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
8	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
9	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。

10	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
11	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
12	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
13	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
14	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
15	前期では、三味線の持ち方、バチの持ち方から始まり、正しい演奏方法、どう弾いたら良い音が出せるかと云う事を、練習から入りながら指導する。古典曲も「松の緑」は前期に教え、その古典曲をどう弾くかを、そのフレーズの弾き方、リズムのとり方、正しい勘処（ポジション）、調弦の合わせ方を練習しながらマスターするように教える。
16	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
17	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
18	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
19	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
20	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
21	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
22	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
23	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
24	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
25	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
26	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
27	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。

28	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
29	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。
30	後期は、前期に引き続き、よりスムーズに、メロディックに勘処の移行が出来るように、古典曲はレベルに合わせて「都鳥」「小鍛治」を練習しながら、曲の理解を深める。

科目名	邦楽1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	上野　航				
クラス名					

授業目的と到達目標
受講生各自が将来、学校教員・種々の音楽指導者、あるいは、作曲家・演奏家・音楽愛好家として、日本伝統文化を深く、さらにはできるだけ広く理解しようとする意欲が持てるよう指導を行う。特に、日本楽器のなかで、国際的普及が顕著であり、かつ伝統音楽からポピュラー音楽まで、幅広く使用されている尺八について、基礎知識習得と実技を通して魅力を知り、建学の精神における「自由の精神の徹底」に基づいて、その経験を諸活動に役立てられるようにする。

授業概要
「邦楽1」では、時代劇等に登場することで知られる虚無僧の音楽「古典本曲」を扱い、楽器と奏法の特徴を体得し、独奏曲、吹き合わせ等の稽古を行なう。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
楽器演奏は、短時間でも毎日稽古することが、自己の能力やものの考え方の上で、新たな発見へとつながります。尺八という楽器が出してくれる音と、自分の身体との相互作用を心地よく味わいながら練習を楽しんでください。

成績評価方法・基準	
種別	割合（%）
発表会	40
授業に取り組む姿勢	50
最終課題	10

教科書			
教科書1	授業内で配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名1	『古管尺八の楽器学』		
出版社名	東京：出版芸術社	著者名	志村哲
参考書名2	『事典　世界音楽の本』		
出版社名	東京：岩波書店	著者名	志村哲ほか、共著
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
尺八演奏を行う教員が、古典邦楽演奏者としての視点・経験を活かして、理論と実技の両面から指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	1. 尺八の歴史と楽器の種類、音楽種目の拡がりを理解する。 楽器の取り扱い方法を学ぶ。
2	発音の原理を知り、練習方法を学ぶ。
3	各自の問題点の確認と実技に関する指導。
4	2. 実技指導に際しては、以下の内容を、各自の習得レベルに合わせて、毎週、繰り返し指導する。
5	・様々な楽器尺八の取り扱い方法を学ぶ。
6	・吹奏に際して、心身の事前準備、姿勢、呼吸法等を修得する。
7	・楽器の機構を理解し、正しい発音方法を身につける。
8	・練習曲により、音階と簡単な旋律の運指および、オクターブ間の吹分けの練習を行なう。
9	・楽器の機構を理解し、正しい発音方法を繰り返し確認しながら身につける。 ・音階と簡単な旋律の運指および、オクターブ間の吹分けの練習。
10	・楽器の機構を理解し、正しい発音方法を身につける。・音階と簡単な旋律の運指および、オクターブ間の吹分けの練習。
11	・記譜法の理解と楽曲の実技指導。
12	・記譜法の理解と楽曲の実技指導。
13	・記譜法の理解と楽曲の実技指導。
14	3. 楽曲の吹奏は、各自の習得レベルに応じて、以下の内容で、毎週、繰り返し稽古する。
15	・古典本曲の記譜法を理解する。
16	・古典本曲の記譜法を理解する。
17	・虚無僧尺八の基本的な吹奏技法を学ぶ。
18	・虚無僧尺八の基本的な吹奏技法を学ぶ。
19	・虚無僧尺八の基本的な吹奏技法を学ぶ。
20	・吹奏音の音色をよくするための稽古を実践する。
21	・吹奏音の音色をよくするための稽古を実践する。
22	・吹奏音の音色をよくするための稽古を実践する。
23	・虚無僧尺八の特徴を理解し、古典本曲≪嘘鈴≫を稽古する。
24	・虚無僧尺八の特徴を理解し、古典本曲≪嘘鈴≫を稽古する。
25	・虚無僧尺八の特徴を理解し、古典本曲≪嘘鈴≫を稽古する。
26	4. 1年間の修行の成果を発表会で吹奏し、確認する。
27	・尺八固有の運指法を簡単な楽曲の練習を通じて身につける。
28	・尺八固有の運指法を簡単な楽曲の練習を通じて身につける。
29	発表会の実施
30	一年間の復習

科目名	器楽合奏法	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	西田　和久				
クラス名	ME／PM コース　対象				

授業目的と到達目標

器楽の合奏指導について、楽器演奏に共通する基本的性質の理解を通して、合奏指導に必要な知識を学び、能力を習得する。また、この科目で使用されるリコーダーの演奏技術を習得して、教員採用試験に備える。なお、自ら演奏できるだけでなく、指導という視点も併せて身につける。

授業概要

アルト・リコーダーの演奏技術を習得する過程で、楽器演奏の特質を理解させ、合奏への適用を経験することにより、「分業である合奏」の指導方法を身につける。また、リコーダー・アンサンブルの指揮を経験して、実際に指導を行う。なお、授業中に課題の演奏を課したり、小テストを行い、学習状態の把握や修正を行う。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

教職に関係する授業なので、最低限の音楽的基礎知識、及び基礎能力を持って授業に出席してください。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
実技試験（評価の種別を問わず、全ての試験を受ける事を前提とした割合を以下に示す。）	40
筆記試験（評価の種別を問わず、全ての試験を受ける事を前提とした割合を以下に示す。）	30
平常成績（評価の種別を問わず、全ての試験を受ける事を前提とした割合を以下に示す。）	30

教科書

教科書1	必要な楽譜を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
バロック式アルト・リコーダーを持参してください。

教員実務経験
担当者:テューバ奏者として在阪の職業演奏団体で演奏。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	授業目的、概要、使用楽器、教材等の説明、アンケートを実施する。
2	リコーダーの基礎奏法の説明（呼吸、運指、タンギング／作音楽器としてのリコーダー演奏の経験を通して、管楽器一般に共通する演奏の特徴を学ぶ）、及び受講生の状態を確認する。
3	器楽指導についての基本理念を口実筆記する。また、以後数週間に亘り、演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する。先ずはハ長調の音階と分散和音を使い、運指の学習プロセスを学ぶ。また、教科書の中の練習曲を使い、アンサンブルの基礎を学ぶ。
4	演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する（難易度を上げる）。
5	教科書の中の練習曲を使い、アンサンブルの基礎を学ぶ。また、演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する。次にト長調の音階と分散和音を使い、運指の学習プロセスを学ぶ。
6	器楽演奏の特徴について説明する。また、演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する（難易度を上げる）。
7	管楽器のアーティキュレーションを学ぶ。演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する（難易度を上げる）。また、以後は小テストを随時行い、受講生の習得状態の把握や修正を行う。
8	練習曲を課題としてリコーダー・アンサンブルの演奏を行う。またその演奏を受講生相互で評価する事により、演奏状態の把握や指導について学ぶ。
9	演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する。次に変ロ長調の音階と分散和音を使い、運指の学習プロセスを学ぶ。また、教科書の中の練習曲を使い、アンサンブルを学ぶ。
10	練習曲を課題としてリコーダー・アンサンブルの演奏を行う。またその演奏を受講生相互で評価する事により、演奏状態の把握や指導について学ぶ。（難易度を上げる）
11	演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する。次にト短調の音階と分散和音を使い、運指の学習プロセスを学ぶ。また、教科書の中の練習曲を使い、アンサンブルを学ぶ。
12	今までに学習した音階と分散和音やアーティキュレーションの復習を通して、楽器演奏の特徴についての理解を深める。
13	演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する。次にニ長調の音階と分散和音を使い、運指の学習プロセスを学ぶ。また、教科書の中の練習曲を使い、アンサンブルを学ぶ。
14	音階と分散和音の復習、実技試験曲の練習、及び前期にて学習した内容を受講生が筆記にてまとめ、提出する。
15	授業とまとめ。及び、期末試験：実技（音階と分散和音、アーティキィレーション、独奏と２重奏）
16	期末試験（実技）の結果を受けて、前記授業内容の復習、および知識的内容のまとめを受けて、修正及び復習。

17	演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する。次にイ長調の音階と分散和音を使い、運指の学習プロセスを学ぶ。また、教科書の中の練習曲を使い、アンサンブルを学ぶ。
18	合奏の構造と作音楽器のコントロールの関係について学ぶ。
19	演奏の基礎技術として音階と分散和音の練習や、アンサンブルの基礎として音感とビート感に基づいたリコーダーの演奏を経験する。次にイ短調の音階と分散和音を使い、運指の学習プロセスを学ぶ。また、教科書の中の練習曲を使い、アンサンブルを学ぶ。
20	前期から後期にかけて学習した練習曲の中から、指揮の学習に使用するものを選択し、レパートリーを作る。
21	指揮について（指揮者がなすべき内容、技術）説明し、技術的内容を練習する。
22	先立って練習したレパートリーを使い、合奏指導に関するリハーサル・テクニックを学ぶ。
23	合奏指導：指揮（簡単な曲をリコーダー・アンサンブルで演奏し、受講生が指揮を経験する）
24	合奏指導：指揮（様々な曲舞曲をリコーダー・アンサンブルで演奏し、受講生が指揮を経験する）＃1：以後 4 週間に亘って受講生全員が合奏指揮を行い、実際の指導を経験する。また、指揮をする学生以外はアンサンブルで演奏をする。
25	合奏指導：指揮（様々な曲舞曲をリコーダー・アンサンブルで演奏し、受講生が指揮を経験する）＃2：受講生が合奏指揮を行い、実際の指導を経験する。また、指揮をする学生以外はアンサンブルで演奏をする。
26	合奏指導：指揮（様々な曲舞曲をリコーダー・アンサンブルで演奏し、受講生が指揮を経験する）＃3：受講生が合奏指揮を行い、実際の指導を経験する。また、指揮をする学生以外はアンサンブルで演奏をする。
27	合奏指導：指揮（様々な曲舞曲をリコーダー・アンサンブルで演奏し、受講生が指揮を経験する）＃4：受講生が合奏指揮を行い、実際の指導を経験する。また、指揮をする学生以外はアンサンブルで演奏をする。
28	器楽指導法について授業を振り返り概観する. 及び、期末試験：筆記（前・後期を通して学んだ知識的な内容を総合した設問に答える）
29	実技内容を復習する。及び、期末試験：実技（音階と分散和音、アーティキィレーション、独奏と 2 重奏）
30	期末試験を受けて、内容の復習及び修正を行う。

科目名	合唱1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	永松　圭子、多久　潤子、秋本　靖仁、福井　雅志、磯本　龍成				
クラス名					

授業目的と到達目標

各曲を全員で呼吸を合わせ奏でる事で合唱を理解し豊かな心を育てる。そして12月に開催される特別演奏会を目指すことで心を一つにし、今後社会で協調性のある人間の育成を目指す。

授業概要

基本、毎週4人の講師がそれぞれ4部屋に分かれ4パートを指導し練習し、時には全体練習を行う。そして公演前には指揮者とのオーケストラリハーサルを行い本番を目指す。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

12月に行われる「大阪芸術大学特別演奏会」に出演すること。
また上記の特別演奏会の直前の特別練習（指揮者練習・オーケストラ合わせなど）に出席すること。
毎週の授業に積極的に受講すること。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業への積極的参加度	100

教科書

教科書1	指定の楽譜を授業内で購入		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
声楽家、オペラや宗教曲など幅広い分野において独唱、アンサンブル等で歌唱、合わせて合唱指導も行っている。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス（授業での心構え、授業概要） 過去の特別演奏会を鑑賞することもある。 パート分け（ソプラノ・アルト・テノール・バス） 声を出す上での身体の使い方、発声練習（発声については毎回の授業に於いて譜読みと並行して指導する）
2	特別演奏会に向けての譜読みを開始 パートに分かれて階名、母音、歌詞よる歌唱①
3	パートに分かれて階名、母音、歌詞よる歌唱②
4	パートに分かれて階名、母音、歌詞よる歌唱③
5	パートに分かれて階名、母音、歌詞よる歌唱④
6	パートに分かれて階名、母音、歌詞よる歌唱⑤
7	パートに分かれて階名、母音、歌詞よる歌唱⑥
8	全体練習①（それぞれのパートの音の重なりを感じる）
9	全体練習②（それぞれのパートの音の重なりを感じる）
10	パートに分かれて歌詞による歌唱①
11	パートに分かれて歌詞による歌唱②
12	パートに分かれて歌詞による歌唱③
13	パートに分かれて歌詞による歌唱④
14	パートに分かれて歌詞による歌唱⑤
15	全体練習③（前期のまとめ）
16	パートに分かれて歌詞による歌唱⑥
17	パートに分かれて歌詞による歌唱⑦
18	パートに分かれて歌詞による歌唱⑧
19	パートに分かれて歌詞による歌唱⑨
20	パートに分かれて歌詞による歌唱⑩
21	全体練習④（全曲を通して練習）
22	全体練習⑤（全曲を通して練習）
23	パートに分かれて歌詞による歌唱⑪
24	パートに分かれて歌詞による歌唱⑫
25	全体練習⑥（歌い込み）
26	全体練習⑦（歌い込み）
27	特別演奏会の演奏を鑑賞しディスカッション
28	混声４部合唱曲を用いてハーモニーを養う①
29	混声４部合唱曲を用いてハーモニーを養う②
30	全体でこれまでのまとめ、発表など

科目名	ピアノ1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	レッスン（代表採点）		
教員名	今川　裕代、熊本　マリ、仲道　祐子、中村　佳世子、笠原　純子、片山　優陽、木田　志津加、中村　勝樹、秋山　裕子、三木　康子、山崎　葉子、初瀬川　未雪、河合　摂子、深井　千聡、小林　かずみ、田中　正也、島本　淳子、兒玉　千沙子、多久　潤子、遠藤　玲子、阪本　久美、岡田　陽子、阪本　朋子、宮原　雄大、山田　真由美、辻川　謙次				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽の基礎としてクラシックのピアノを学ぶ。ピアノを弾くことにより、読譜力、和声感覚、音楽の全体像を捉える力などを身につけ、各自の専攻する器楽や声楽の演奏の向上の助けとなることを目的とする。
また必要に応じて中学・高校音楽科教職課程にも対応し、楽譜を正確に読み取りピアノで表現できることを目標とする。

授業概要

週1回 20 分の個人レッスン。
1年次前期は経験者、初心者に係わらずピアノ演奏の基礎から指導する。
それぞれの進度に応じて担当教員から出される課題(自由曲)に取り組み、ピアノ演奏に必要な技術の習得を目指す。
基礎をしっかり身に付ける事を重要視し,前期試験は行わず後期試験（自由曲）でその成果を見る。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

毎日の練習を欠かさないこと。
楽語など、事前に調べておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
後期実技試験	100

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			

特記事項
レッスン受講回数が 20 回に満たない場合は単位認定できない。教職課程を履修する学生が教育実習に行くためには、定期試験とは別に実施される教職認定試験(2 年次~3 年次)に、合格しなくてはならない。

教員実務経験
教員の豊富な経験により、学生の技量に合わせた選曲と指導を行う。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	進度の見極めと前期課題の決定
2	個人の進度に合わせたレッスン1
3	個人の進度に合わせたレッスン2
4	個人の進度に合わせたレッスン3
5	個人の進度に合わせたレッスン4
6	個人の進度に合わせたレッスン5
7	個人の進度に合わせたレッスン6
8	個人の進度に合わせたレッスン7
9	個人の進度に合わせたレッスン8
10	個人の進度に合わせたレッスン9
11	個人の進度に合わせたレッスン10
12	個人の進度に合わせたレッスン11
13	個人の進度に合わせたレッスン12
14	個人の進度に合わせたレッスン13
15	個人の進度に合わせたレッスン14 後期課題の提案
16	後期課題の決定 個人の進度に合わせたレッスン1
17	個人の進度に合わせたレッスン2
18	個人の進度に合わせたレッスン3
19	個人の進度に合わせたレッスン4
20	個人の進度に合わせたレッスン5
21	個人の進度に合わせたレッスン6
22	個人の進度に合わせたレッスン7
23	個人の進度に合わせたレッスン8
24	個人の進度に合わせたレッスン9
25	個人の進度に合わせたレッスン10
26	個人の進度に合わせたレッスン11
27	個人の進度に合わせたレッスン12

28	個人の進度に合わせたレッスン13	
29	個人の進度に合わせたレッスン14	
30	後期試験に向けての最終レッスン	

科目名	ピアノ2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	レッスン（代表採点）		
教員名	今川　裕代、熊本　マリ、仲道　祐子、中村　佳世子、笠原　純子、片山　優陽、木田　志津加、中村　勝樹、秋山　裕子、三木　康子、山崎　葉子、初瀬川　未雪、河合　摂子、深井　千聡、小林　かずみ、田中　正也、島本　淳子、兒玉　千沙子、多久　潤子、遠藤　玲子、阪本　久美、岡田　陽子、阪本　朋子、宮原　雄大、山田　真由美、辻川　謙次				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽の基礎としてクラシックのピアノを学ぶ。ピアノを弾くことにより、読譜力、和声感覚、音楽の全体像を捉える力などを身につけ、各自が専攻するコースの、専門科目の理解の助けとなることを目的とする。
また必要に応じて中学・高校音楽科教職課程にも対応し、楽譜を正確に読み取りピアノで表現できることを目標とする。

授業概要

週1回 20 分の個人レッスン。
1年次で学んだ事を更に深く学習する。それぞれの進度に応じて担当教員から出される課題(自由曲)に取り組み、ピアノ演奏に必要な技術の更なる習得を目指す。前期試験（自由曲）、後期試験（自由曲）でその成果を見る。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

毎日の練習を欠かさないこと。
楽語などは事前に調べておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期・後期実技試験	100

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			

特記事項
レッスン受講回数が 20 回に満たない場合は単位認定できない。 教職課程を履修する学生が教育実習に行くためには、定期試験とは別に実施される教職認定試験(2 年次~3 年次)に、合格しなくてはならない。
教員実務経験
教員の豊富な経験により、学生の技量に合わせた選曲と指導を行う。
授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	前期課題の決定 教職課程を履修している学生に対しては、教職認定試験の課題曲も決定する
2	個人の進度に合わせたレッスン1
3	個人の進度に合わせたレッスン2
4	個人の進度に合わせたレッスン3
5	個人の進度に合わせたレッスン4
6	個人の進度に合わせたレッスン5
7	個人の進度に合わせたレッスン6
8	個人の進度に合わせたレッスン7
9	個人の進度に合わせたレッスン8
10	個人の進度に合わせたレッスン9
11	個人の進度に合わせたレッスン10
12	個人の進度に合わせたレッスン11
13	個人の進度に合わせたレッスン12
14	個人の進度に合わせたレッスン13
15	前期試験に向けての最終レッスン
16	後期課題の決定及び教職認定試験の受験が必要な学生に対しては受験曲の確認 個人の進度に合わせたレッスン1
17	個人の進度に合わせたレッスン2
18	個人の進度に合わせたレッスン3
19	個人の進度に合わせたレッスン4
20	個人の進度に合わせたレッスン5
21	個人の進度に合わせたレッスン6
22	個人の進度に合わせたレッスン7
23	個人の進度に合わせたレッスン8
24	個人の進度に合わせたレッスン9
25	個人の進度に合わせたレッスン10
26	個人の進度に合わせたレッスン11
27	個人の進度に合わせたレッスン12

28	個人の進度に合わせたレッスン13	
29	個人の進度に合わせたレッスン14	
30	後期試験に向けての最終レッスン	

科目名	ピアノ3	年次	3	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	レッスン（代表採点）		
教員名	今川　裕代、熊本　マリ、仲道　祐子、中村　佳世子、笠原　純子、片山　優陽、木田　志津加、中村　勝樹、秋山　裕子、三木　康子、山崎　葉子、初瀬川　未雪、河合　摂子、深井　千聡、小林　かずみ、田中　正也、島本　淳子、兒玉　千沙子、多久　潤子、遠藤　玲子、阪本　久美、岡田　陽子、阪本　朋子、宮原　雄大、山田　真由美、辻川　謙次				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽の基礎としてクラシックのピアノを学ぶ。ピアノを弾くことにより、読譜力、和声感覚、音楽の全体像を捉える力などを身につけ、各自が専攻するコースの、専門科目の理解の助けとなることを目的とする。
また必要に応じて中学・高校音楽科教職課程にも対応し、楽譜を正確に読み取りピアノで表現できることを目標とする。

授業概要

週1回 20 分の個人レッスン。
1・2年次で学んだ事を更に深く学習する。それぞれの進度に応じて担当教員から出される課題(自由曲)に取り組み、ピアノ演奏に必要な技術の更なる習得を目指す。前期試験（自由曲）、後期試験（自由曲）でその成果を見る。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

毎日の練習を欠かさないこと。
楽語などは事前に調べておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期・後期実技試験	100

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

レッスン受講回数が 20 回に満たない場合は単位認定できない。
教職課程を履修する学生が教育実習に行くためには、定期試験とは別に実施される教職認定試験(2 年次~3 年次)に、合格しなくてはならない。

教員実務経験

教員の豊富な経験により、学生の技量に合わせた選曲と指導を行う。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	前期課題の決定及び教職認定試験の受験が必要な学生に対しては受験曲の確認
2	個人の進度に合わせたレッスン1
3	個人の進度に合わせたレッスン2
4	個人の進度に合わせたレッスン3
5	個人の進度に合わせたレッスン4
6	個人の進度に合わせたレッスン5
7	個人の進度に合わせたレッスン6
8	個人の進度に合わせたレッスン7
9	個人の進度に合わせたレッスン8
10	個人の進度に合わせたレッスン9
11	個人の進度に合わせたレッスン10
12	個人の進度に合わせたレッスン11
13	個人の進度に合わせたレッスン12
14	個人の進度に合わせたレッスン13
15	前期試験に向けての最終レッスン
16	後期課題の決定及び個人の進度に合わせたレッスン1
17	個人の進度に合わせたレッスン2
18	個人の進度に合わせたレッスン3
19	個人の進度に合わせたレッスン4
20	個人の進度に合わせたレッスン5
21	個人の進度に合わせたレッスン6
22	個人の進度に合わせたレッスン7
23	個人の進度に合わせたレッスン8
24	個人の進度に合わせたレッスン9
25	個人の進度に合わせたレッスン10
26	個人の進度に合わせたレッスン11
27	個人の進度に合わせたレッスン12
28	個人の進度に合わせたレッスン13
29	個人の進度に合わせたレッスン14

30	後期試験に向けての最終レッスン	

科目名	声楽1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	レッスン（代表採点）		
教員名	東野　亜弥子、髙橋　純、岩城　拓也、樽谷　昌子、南川　良治、水口　聡、中川　恵理子、松井　るみ、田代　睦美、永松　圭子、三原　剛、田代　恭也、篠部　信宏、山本　隆子、河田　早紀、秋本　靖仁、福井　雅志、磯本　龍成、平　欣史、太島　優希				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎的発声法を学習しながら、各自の専門分野に活かせる豊かな音楽性を習得する為、声楽を学ぶ。
学校教育（音楽科）や音楽教育の現場において将来教職に就く者にとって授業の発信力となる「発声法」の修得や「読譜力」の充実を目指す。
ディプロマポリシーの「知識・技術・感性を身につけ、演奏家、トレーナー、音楽の良き理解者として音楽家教員、音楽講師などを目指せる人材を育成すること」を目的に、声楽を通して広い視野を持った心豊かな人間性の構築を目指す。

授業概要

担当教員の指導のもと、各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。
《試験曲》
前期：読譜力テスト（コンコーネ 50 番より 5 曲　試験当日 1 曲指定）
後期：日本歌曲1曲

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

しっかりとした予習・復習	

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
実技試験	100

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

読譜力テスト不合格者及びレッスン受講回数が 20 回に達していない場合は単位認定出来ない。

教員実務経験

声楽家、オペラ歌手、合唱指導者、宗教曲のソリストとしての演奏活動や指導者としての実績を活かし、技術、表現力を習得させる。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
2	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
3	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
4	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
5	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
6	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
7	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
8	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
9	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
10	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
11	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
12	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
13	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
14	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
15	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
16	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
17	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。

18	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
19	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
20	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
21	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
22	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
23	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
24	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
25	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
26	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
27	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
28	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
29	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
30	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。

科目名	声楽2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	レッスン（代表採点）		
教員名	東野　亜弥子、髙橋　純、岩城　拓也、樽谷　昌子、南川　良治、水口　聡、中川　恵理子、松井　るみ、田代　睦美、永松　圭子、三原　剛、田代　恭也、篠部　信宏、山本　隆子、河田　早紀、秋本　靖仁、福井　雅志、磯本　龍成、平　欣史、太島　優希				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎的発声法を学習しながら、各自の専門分野に活かせる豊かな音楽性を習得する為、声楽を学ぶ。
学校教育（音楽科）や音楽教育の現場において将来教職に就く者にとって授業の発信力となる「発声法」の修得や「読譜力」の充実を目指す。
ディプロマポリシーの「知識・技術・感性を身につけ、演奏家、トレーナー、音楽の良き理解者として音楽家教員、音楽講師などを目指せる人材を育成すること」を目的に、声楽を通して広い視野を持った心豊かな人間性の構築を目指す。

授業概要

担当教員の指導のもと、各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。
《試験曲》
前期：読譜力テスト（コンコーネ 50 番より 5 曲　試験当日 1 曲指定）
後期：イタリア古典歌曲1曲

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

しっかりとした予習・復習

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
実技試験	100

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

読譜力テスト不合格者及びレッスン受講回数が 20 回に達していない場合は単位認定出来ない。

教員実務経験

声楽家、オペラ歌手、合唱指導者、宗教曲のソリストとしての演奏活動や指導者としての実績を活かし、技術、表現力を習得させる。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
2	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
3	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
4	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
5	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
6	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
7	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
8	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
9	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
10	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
11	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
12	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
13	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
14	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
15	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
16	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
17	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。

18	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
19	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
20	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
21	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
22	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
23	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
24	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
25	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
26	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
27	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
28	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
29	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
30	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。

科目名	ピアノ実技3	年次	3	単位数	6
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	レッスン（代表採点）		
教員名	今川　裕代、熊本　マリ、仲道　祐子、中村　佳世子、笠原　純子、片山　優陽、木田　志津加、中村　勝樹、秋山　裕子、三木　康子、山崎　葉子、初瀬川　未雪、河合　摂子、深井　千聡、小林　かずみ、田中　正也、島本　淳子、兒玉　千沙子、多久　潤子、遠藤　玲子、阪本　久美、岡田　陽子、阪本　朋子、宮原　雄大、山田　真由美、辻川　謙次				
クラス名					

授業目的と到達目標

ピアノを専攻する学生の為のレッスンで、個々の音楽的感覚の向上を目指す。ピアノ演奏のテクニックを極め、ピアノによる表現能力の幅を広げることを目的とする。
演奏技術の基礎をしっかり習得し、楽譜を正確に読み取った上で、各々の感性を表現できるようになることを目標とする。

授業概要

週1回 60 分の個人レッスン。
前期課題：エチュード（任意）・J.S.バッハ(平均律Ⅰ・Ⅱ巻よりフーガ又は前奏曲とフーガ)・ベートーヴェンのソナタ
後期課題：エチュード（任意）・J.S.バッハ(平均律Ⅰ・Ⅱ巻より前奏曲とフーガ又はイギリス組曲よりプレリュード)・自由曲
それぞれの課題を通してフレーズ、音色、様式などについて一週毎に内容を深め表現に必要な技術を身につけていく。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

毎日の練習を欠かさないこと。
各自の課題に関する必要な知識を得ておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期・後期実技試験	100

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

レッスン受講回数が 20 回に達していない場合は単位認定出来ない。
教職課程を履修する学生は、2 年次~3 年次に実施される教職認定テストに合格しなければならない。
前期後期の課題曲の詳細については、課題曲表を確認すること。

教員実務経験

教員の豊富な経験により、学生の技量に合わせた選曲と指導を行う。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	前期課題の決定及び教職認定試験の受験が必要な学生に対しては受験曲の確認
2	個人の進度に合わせたレッスン1
3	個人の進度に合わせたレッスン2
4	個人の進度に合わせたレッスン3
5	個人の進度に合わせたレッスン4
6	個人の進度に合わせたレッスン5
7	個人の進度に合わせたレッスン6
8	個人の進度に合わせたレッスン7
9	個人の進度に合わせたレッスン8
10	個人の進度に合わせたレッスン9
11	個人の進度に合わせたレッスン10
12	個人の進度に合わせたレッスン11
13	個人の進度に合わせたレッスン12
14	個人の進度に合わせたレッスン13
15	前期課題に向けての最終レッスン
16	後期課題の決定及び個人の進度に合わせたレッスン1
17	個人の進度に合わせたレッスン2
18	個人の進度に合わせたレッスン3
19	個人の進度に合わせたレッスン4
20	個人の進度に合わせたレッスン5
21	個人の進度に合わせたレッスン6
22	個人の進度に合わせたレッスン7
23	個人の進度に合わせたレッスン8
24	個人の進度に合わせたレッスン9
25	個人の進度に合わせたレッスン10
26	個人の進度に合わせたレッスン11
27	個人の進度に合わせたレッスン12

28	個人の進度に合わせたレッスン13	
29	個人の進度に合わせたレッスン14	
30	後期試験に向けての最終レッスン	

科目名	声楽実技3	年次	3	単位数	6
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	レッスン（代表採点）		
教員名	東野　亜弥子、髙橋　純、岩城　拓也、樽谷　昌子、南川　良治、水口　聡、中川　恵理子、松井　るみ、田代　睦美、永松　圭子、三原　剛、田代　恭也、篠部　信宏、山本　隆子、河田　早紀、秋本　靖仁、福井　雅志、磯本　龍成、平　欣史、太島　優希				
クラス名					

授業目的と到達目標

『歌う』ということから導き出される豊かな音楽性の探求、『詩と音楽の融合』という音楽領域で唯一の分野である声楽作品を音楽的・文学的に研究することにより音楽家としての情操を養い、演奏表現研究を通じて優れた演奏家・教育者を育成する。
ディプロマポリシーの「知識・技術・感性を身につけ、演奏家、トレーナー、音楽の良き理解者として音楽家教員、音楽講師などを目指せる人材を育成すること」を目的に、声楽を通して広い視野を持った心豊かな人間性の構築を目指す。

授業概要

担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。
[試験]
前期：イタリア歌曲（古典を除く）、フランス歌曲、ドイツ歌曲の中から1曲、自由曲（クラシック）1曲
後期：日本歌曲2曲、自由曲（クラシック）1曲

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

しっかりとした予習・復習

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
後期　実技試験	100

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	

参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

レッスン受講回数が 20 回に達していない場合は単位認定出来ない。

教員実務経験

声楽家、オペラ歌手、合唱指導者、宗教曲のソリストとしての演奏活動や指導者としての実績を活かし、技術、表現力を習得させる。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
2	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
3	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
4	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
5	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
6	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
7	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究、及び各々のレベルにあった声楽作品の歌唱研究。
8	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
9	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
10	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
11	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
12	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
13	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
14	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
15	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
16	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
17	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。

18	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
19	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
20	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
21	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
22	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
23	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
24	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
25	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
26	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
27	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
28	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
29	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。
30	担当教員の指導のもとに各自に応じた選曲をし、歌唱表現について研究する。 発声など基礎的な研究に加えて課題曲その他の声楽作品の演奏研究。

科目名	ソルフェージュ1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	紺谷　志野、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽の演奏、創作や研究に必要な基礎能力を養う。簡単な旋律・密集四声体の聴音、簡単な新曲視唱・弾き歌いができるようにする。

授業概要

音楽の基礎訓練として、楽譜を読む、旋律を歌う、旋律や和声を書きとるなど、音楽の構造（特に和声進行）を理解しながら学習する。クラスによって学習する調や進度が少しずつ変わることがある。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

音楽の基礎的能力を付けるため、楽典（特に音程と諸調の音階の構成音）を予習し、継続して授業に出席し、私語をせず授業内容に集中する。また授業で学んだ課題を繰り返し復習し他の調に移調して歌い、弾き、記譜するとが必要である。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
後期授業内小テスト	40
前期授業内小テスト	40
主体的な授業参加	20

教科書

教科書1	適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
ピアニスト、作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、演奏表現に不可欠な基礎のソルフェージュ力が身につくよう指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ソルフェージュについて説明。 音部記号、音階、音名、以降楽典と関係付けながら進める。
2	音階の説明（ハ長調、イ短調で） 高音部譜表にて2度音程の学習、音符の説明
3	ハ長調、イ短調にて 半音階。2度音程で視唱 2/4、3/4、4/4 拍子（以後 28 週まで学習する各音程を含む課題）
4	ハ長調、イ短調にて 3度音程。旋律聴音開始（以後 28 週まで聴音と視唱）
5	ハ長調、イ短調にて 3度音程。2度3度上下調に移調
6	近親調の学習 4度5度音程。
7	ハ長調、イ短調にて 6度7度音程。3/8 拍子、6/8 拍子
8	ハ長調、イ短調にて 8度音程。低音部譜表の学習、密集四声体聴音開始
9	ト長調にて 少しずつそれぞれの音程、リズムを訓練
10	ホ短調にて
11	ヘ長調にて
12	ニ短調にて
13	聴音課題と小テスト
14	前期学習の復習とまとめ
15	新曲視唱課題学習と小テスト
16	前期の復習 簡単なリズムのポップス名曲の視唱
17	前期で学習した各訓練の続行（27 週まで）、 4小節の簡単な弾き歌い
18	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
19	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
20	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
21	細分化したリズムの視唱と聴音 やや複雑なポップス名曲の視唱
22	混合拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い

23	変拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い
24	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
25	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
26	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
27	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
28	後期学習の復習とまとめ
29	聴音学習と小テスト
30	新曲視唱学習と小テスト

科目名	ソルフェージュ1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標
音楽の演奏、創作や研究に必要な基礎能力を養う。簡単な旋律・密集四声体の聴音、簡単な新曲視唱・弾き歌いができるようにする。

授業概要
音楽の基礎訓練として、楽譜を読む、旋律を歌う、旋律や和声を書きとるなど、音楽の構造（特に和声進行）を理解しながら学習する。クラスによって学習する調や進度が少しずつ変わることがある。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
音楽の基礎的能力を付けるため、楽典（特に音程と諸調の音階の構成音）を予習し、継続して授業に出席し、私語をせず授業内容に集中する。また授業で学んだ課題を繰り返し復習し他の調に移調して歌い、弾き、記譜することが必要である。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
後期授業内小テスト	40
前期授業内小テスト	40
主体的な授業参加	20

教科書

教科書1	適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、演奏表現に不可欠な基礎のソルフェージュ力が身につくよう指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ソルフェージュについて説明。 音部記号、音階、音名、以降楽典と関係付けながら進める。
2	音階の説明（ハ長調、イ短調で） 高音部譜表にて2度音程の学習、音符の説明
3	ハ長調、イ短調にて 半音階。2度音程で視唱 2/4、3/4、4/4 拍子（以後 28 週まで学習する各音程を含む課題）
4	ハ長調、イ短調にて 3度音程。旋律聴音開始（以後 28 週まで聴音と視唱）
5	ハ長調、イ短調にて 3度音程。2度3度上下調に移調
6	近親調の学習 4度5度音程。
7	ハ長調、イ短調にて 6度7度音程。3/8 拍子、6/8 拍子
8	ハ長調、イ短調にて 8度音程。低音部譜表の学習、密集四声体聴音開始
9	ト長調にて 少しずつそれぞれの音程、リズムを訓練
10	ホ短調にて
11	ヘ長調にて
12	ニ短調にて
13	前期聴音課題と小テスト
14	前期学習の復習とまとめ
15	新曲視唱課題学習と小テスト
16	前期の復習 簡単なリズムのポップス名曲の視唱
17	前期で学習した各訓練の続行（27 週まで）、 4小節の簡単な弾き歌い
18	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
19	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
20	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
21	細分化したリズムの視唱と聴音 やや複雑なポップス名曲の視唱
22	混合拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い

23	変拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い
24	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
25	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
26	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
27	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
28	後期学習の復習とまとめ
29	聴音学習と小テスト
30	新曲視唱学習と小テスト

科目名	ソルフェージュ1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	楠田　陽子、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽の演奏、創作や研究に必要な基礎能力を養う。簡単な旋律・密集四声体の聴音、簡単な新曲視唱・弾き歌いができるようにする。

授業概要

音楽の基礎訓練として、楽譜を読む、旋律を歌う、旋律や和声を書きとるなど、音楽の構造（特に和声進行）を理解しながら学習する。クラスによって学習する調や進度が少しずつ変わることがある。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

音楽の基礎的能力を付けるため、楽典（特に音程と諸調の音階の構成音）を予習し、継続して授業に出席し、私語をせず授業内容に集中する。また授業で学んだ課題を繰り返し復習し他の調に移調して歌い、弾き、記譜することが必要である。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
後期授業内小テスト	40
前期授業内小テスト	40
主体的な授業参加	20

教科書

教科書1	適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、演奏表現に不可欠な基礎のソルフェージュ力が身につくよう指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ソルフェージュについて説明。 音部記号、音階、音名、以降楽典と関係付けながら進める。
2	音階の説明（ハ長調、イ短調で） 高音部譜表にて2度音程の学習、音符の説明
3	ハ長調、イ短調にて 半音階。2度音程で視唱 2/4、3/4、4/4 拍子（以後 28 週まで学習する各音程を含む課題）
4	ハ長調、イ短調にて 3度音程。旋律聴音開始（以後 28 週まで聴音と視唱）
5	ハ長調、イ短調にて 3度音程。2度3度上下調に移調
6	近親調の学習 4度5度音程。
7	ハ長調、イ短調にて 6度7度音程。3/8 拍子、6/8 拍子
8	ハ長調、イ短調にて 8度音程。低音部譜表の学習、密集四声体聴音開始
9	ト長調にて少しずつそれぞれの音程、リズムを訓練
10	ホ短調にて
11	ヘ長調にて
12	ニ短調にて
13	前期聴音課題と小テスト
14	前期学習の復習とまとめ
15	新曲視唱課題学習と小テスト
16	前期の復習 簡単なリズムのポップス名曲の視唱
17	前期で学習した各訓練の続行（27 週まで）、 4小節の簡単な弾き歌い
18	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
19	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
20	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
21	細分化したリズムの視唱と聴音 やや複雑なポップス名曲の視唱
22	混合拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い
23	変拍子の視唱

	8小節のやや複雑な弾き歌い
24	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
25	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
26	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
27	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
28	後期学習の復習とまとめ
29	聴音学習と小テスト
30	新曲視唱学習と小テスト

科目名	ソルフェージュ1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	浅井　ちひろ、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽の演奏、創作や研究に必要な基礎能力を養う。簡単な旋律・密集四声体の聴音、簡単な新曲視唱・弾き歌いができるようにする。

授業概要

音楽の基礎訓練として、楽譜を読む、旋律を歌う、旋律や和声を書きとるなど、音楽の構造（特に和声進行）を理解しながら学習する。クラスによって学習する調や進度が少しずつ変わることがある。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

音楽の基礎的能力を付けるため、楽典（特に音程と諸調の音階の構成音）を予習し、継続して授業に出席し、私語をせず授業内容に集中する。また授業で学んだ課題を繰り返し復習し他の調に移調して歌い、弾き、記譜することが必要である。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
後期授業内小テスト	40
前期授業内小テスト	40
主体的な授業参加	20

教科書

教科書1	適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
ピアニスト、作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、演奏表現に不可欠な基礎のソルフェージュ力が身につくよう指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ソルフェージュについて説明。音部記号、音階、音名、以降楽典と関係付けながら進める。
2	音階の説明（ハ長調、イ短調で） 高音部譜表にて2度音程の学習、音符の説明
3	ハ長調、イ短調にて 半音階。2度音程で視唱 2/4、3/4、4/4 拍子（以後 28 週まで学習する各音程を含む課題）
4	ハ長調、イ短調にて 3度音程。旋律聴音開始（以後 28 週まで聴音と視唱）
5	ハ長調、イ短調にて 3度音程。2度3度上下調に移調
6	近親調の学習 4度5度音程。
7	ハ長調、イ短調にて 6度7度音程。3/8 拍子、6/8 拍子
8	ハ長調、イ短調にて 8度音程。低音部譜表の学習、密集四声体聴音開始
9	ト長調にて少しずつそれぞれの音程、リズムを訓練
10	ホ短調にて
11	ヘ長調にて
12	ニ短調にて
13	前期聴音課題と小テスト
14	前期学習の復習とまとめ
15	新曲視唱課題学習と小テスト
16	前期の復習 簡単なリズムのポップス名曲の視唱
17	前期で学習した各訓練の続行（27 週まで）、 4小節の簡単な弾き歌い
18	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
19	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
20	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
21	細分化したリズムの視唱と聴音 やや複雑なポップス名曲の視唱
22	混合拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い
23	変拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い

24	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
25	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
26	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
27	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
28	後期学習の復習とまとめ
29	聴音学習と小テスト
30	新曲視唱学習と小テスト

科目名	ソルフェージュ1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	田坂　千禎、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽の演奏、創作や研究に必要な基礎能力を養う。簡単な旋律・密集四声体の聴音、簡単な新曲視唱・弾き歌いができるようにする。

授業概要

音楽の基礎訓練として、楽譜を読む、旋律を歌う、旋律や和声を書きとるなど、音楽の構造（特に和声進行）を理解しながら学習する。クラスによって学習する調や進度が少しずつ変わることがある。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

音楽の基礎的能力を付けるため、楽典（特に音程と諸調の音階の構成音）を予習し、継続して授業に出席し、私語をせず授業内容に集中する。また授業で学んだ課題を繰り返し復習し他の調に移調して歌い、弾き、記譜することが必要である。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
後期授業内小テスト	40
前期授業内小テスト	40
主体的な授業参加	20

教科書

教科書1	適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
オルガニスト、作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、演奏表現に不可欠な基礎のソルフェージュ力が身につくよう指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ソルフェージュについて説明。 音部記号、音階、音名、以降楽典と関係付けながら進める。
2	音階の説明（ハ長調、イ短調で） 高音部譜表にて2度音程の学習、音符の説明
3	ハ長調、イ短調にて 半音階。2度音程で視唱 2/4、3/4、4/4 拍子（以後 28 週まで学習する各音程を含む課題）
4	ハ長調、イ短調にて 3度音程。旋律聴音開始（以後 28 週まで聴音と視唱）
5	ハ長調、イ短調にて 3度音程。2度3度上下調に移調
6	近親調の学習 4度5度音程。
7	ハ長調、イ短調にて 6度7度音程。3/8 拍子、6/8 拍子
8	ハ長調、イ短調にて 8度音程。低音部譜表の学習、密集四声体聴音開始
9	ト長調にて 少しずつそれぞれの音程、リズムを訓練
10	ホ短調にて
11	ヘ長調にて
12	ニ短調にて
13	前期聴音課題と小テスト
14	前期学習の復習とまとめ
15	新曲視唱課題学習と小テスト
16	前期の復習 簡単なリズムのポップス名曲の視唱
17	前期で学習した各訓練の続行（27 週まで）、 4小節の簡単な弾き歌い
18	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
19	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
20	細分化したリズムの視唱と聴音 4小節の簡単な弾き歌い
21	細分化したリズムの視唱と聴音 やや複雑なポップス名曲の視唱
22	混合拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い

23	変拍子の視唱 8小節のやや複雑な弾き歌い
24	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
25	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
26	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
27	前期で学習した以外の諸調にてさらに進んだ課題の学習 8小節のやや複雑な弾き歌い
28	後期学習の復習とまとめ
29	聴音学習と小テスト
30	新曲視唱学習と小テスト

科目名	ソルフェージュ2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	紺谷　志野、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

ソルフェージュ1の授業内容を継続するが、バランスのとれたソルフェージュ能力を持つこと、表現や音に対する細やかな感覚を持つことを図る。
ソルフェージュ1よりやや複雑な旋律（単・複）、開離四声体の聴音、やや複雑な新曲視唱、弾き歌いができるようにする。

授業概要

ソルフェージュ1と同様の訓練を引き続きさらに多くの調で行うが、四声体が開離配置になり、複旋律聴音が増える。クラスの進展によりさらに高度な能力を養うため学習範囲を広げる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

継続して受講することは言うまでもないが、バランスのとれたソルフェージュ能力を持てるように、自分の弱い点を知り克服しようとする意志を持ってほしい。内容が高度になってくるので楽曲全般を学習し基礎和声法やコード理論を理解して応用できるように対応し、授業で学んだ内容を他の調でも復習することが重要である。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
主体的な授業参加	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	適宜課題やプリントを使用する。五線紙を用意すること		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
ピアニスト、作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、ソルフェージュの基礎を生かし応用力を身に付ける指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ソルフェージュ1の復習 開離四声体聴音の学習（28 週まで）
2	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）
3	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
4	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
5	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
6	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
7	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
8	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
9	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
10	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
11	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
12	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
13	復習
14	聴音小テスト
15	新曲視唱小テスト
16	前期の復習

17	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）
18	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）
19	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、アルト譜表の理解と視唱
20	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、アルト譜表の理解と視唱
21	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、テノール譜表の理解と視唱
22	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、テノール譜表の理解と視唱
23	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、混合拍子の課題視唱
24	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、変拍子の課題視唱
25	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
26	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
27	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
28	復習
29	聴音小テスト
30	新曲視唱小テスト

科目名	ソルフェージュ2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	田坂　千禎、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標
ソルフェージュ1の授業内容を継続するが、バランスのとれたソルフェージュ能力を持つこと、表現や音に対する細やかな感覚を持つことを図る。 ソルフェージュ1よりやや複雑な旋律（単・複）、開離四声体の聴音、やや複雑な新曲視唱、弾き歌いができるようにする。

授業概要
ソルフェージュ1と同様の訓練を引き続きさらに多くの調で行うが、四声体が開離配置になり、複旋律聴音が増える。クラスの進展によりさらに高度な能力を養うため学習範囲を広げる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
継続して受講することは言うまでもないが、バランスのとれたソルフェージュ能力を持てるように、自分の弱い点を知り克服しようとする意志を持ってほしい。内容が高度になってくるので楽曲全般を学習し基礎和声法やコード理論を理解して応用できるように対応し、授業で学んだ内容を他の調でも復習することが重要である。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
主体的な授業参加	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	適宜課題やプリントを使用する。五線紙を用意すること。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
オルガニスト、作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、ソルフェージュの基礎を生かし応用力を身に付ける指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ソルフェージュ1の復習開離四声体聴音の学習（28 週まで）
2	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）
3	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
4	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
5	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
6	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
7	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
8	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
9	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
10	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
11	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
12	＃ ♭ 2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
13	復習
14	聴音小テスト
15	新曲視唱小テスト
16	前期の復習

17	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）
18	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）
19	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、アルト譜表の理解と視唱
20	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、アルト譜表の理解と視唱
21	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、テノール譜表の理解と視唱
22	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、テノール譜表の理解と視唱
23	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、混合拍子の課題視唱
24	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、変拍子の課題視唱
25	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
26	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
27	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
28	復習
29	聴音小テスト
30	新曲視唱小テスト

科目名	ソルフェージュ2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	楠田　陽子、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

ソルフェージュ1の授業内容を継続するが、バランスのとれたソルフェージュ能力を持つこと、表現や音に対する細やかな感覚を持つことを図る。
ソルフェージュ1よりやや複雑な旋律（単・複）、開離四声体の聴音、やや複雑な新曲視唱、弾き歌いができるようにする。

授業概要

ソルフェージュ1と同様の訓練を引き続きさらに多くの調で行うが、四声体が開離配置になり、複旋律聴音が増える。クラスの進展によりさらに高度な能力を養うため学習範囲を広げる。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

継続して受講することは言うまでもないが、バランスのとれたソルフェージュ能力を持てるように、自分の弱い点を知り克服しようとする意志を持ってほしい。内容が高度になってくるので楽曲全般を学習し基礎和声法やコード理論を理解して応用できるように対応し、授業で学んだ内容を他の調でも復習することが重要である。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
主体的な授業参加	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	適宜課題やプリントを使用する。五線紙を用意すること。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、ソルフェージュの基礎を生かし応用力を身に付ける指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ソルフェージュ1の復習 開離四声体聴音の学習（28 週まで）
2	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）
3	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
4	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
5	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
6	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
7	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
8	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
9	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、簡単な複旋律聴音
10	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
11	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
12	#♭2つまでの長短調とハ短調での聴音（28 週まで）。 視唱（含ポップス）、弾き歌い（28 週まで）、やや複雑な単旋律聴音（28 週まで）、12 小節以上の聴音（含借用和音）、転調の学習
13	復習
14	聴音小テスト
15	新曲視唱小テスト
16	前期の復習

17	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）
18	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）
19	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、アルト譜表の理解と視唱
20	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、アルト譜表の理解と視唱
21	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、テノール譜表の理解と視唱
22	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、テノール譜表の理解と視唱
23	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、混合拍子の課題視唱
24	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、変拍子の課題視唱
25	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
26	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
27	前期と同様に聴音（四声体、単・複旋律）視唱（含ポップス）弾き歌い（28 週まで）、強弱記号等を伴った課題の視唱
28	復習
29	聴音小テスト
30	新曲視唱小テスト

科目名	基礎和声法1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	浅井 ちひろ、田中 久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽を志す者にとって和声法の学習は不可欠です。同時に響く数個の音の組み合わせとその連結の技法を修得することで、作曲や演奏の学習に生かすことを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は3和音基本形の連結、後期は3和音第2転回形の連結までを範囲とし、バス課題の形で学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内での添削	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	和声 理論と実習1		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員が作曲家としての活動経験を生かし、和音の連結法を指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	3和音基本形の配置と連結、課題演習と添削
3	3和音基本形の連結、課題演習と添削
4	3和音基本形の連結、課題演習と添削
5	3和音基本形の連結、課題演習と添削
6	3和音基本形の連結、課題演習と添削
7	3和音基本形の連結、課題演習と添削
8	3和音基本形の連結、課題演習と添削
9	3和音基本形の連結、課題演習と添削
10	3和音基本形の連結、課題演習と添削
11	3和音基本形の連結、課題演習と添削
12	3和音基本形の連結、課題演習と添削
13	3和音基本形の連結、課題演習と添削
14	3和音基本形の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	3和音第1転回形の配置と連結、課題演習と添削
18	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
19	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
20	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
21	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
22	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
23	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
24	3和音第2転回形の配置と連結、課題演習と添削
25	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
26	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
27	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
28	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
29	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎和声法1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	楠田　陽子、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽を志す者にとって和声法の学習は不可欠です。同時に響く数個の音の組み合わせとその連結の技法を修得することで、作曲や演奏の学習に生かすことを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は3和音基本形の連結、後期は3和音第2転回形の連結までを範囲とし、バス課題の形で学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内での添削	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	和声　理論と実習1		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員が作曲家としての活動経験を生かし、和音の連結法を指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	3和音基本形の配置と連結、課題演習と添削
3	3和音基本形の連結、課題演習と添削
4	3和音基本形の連結、課題演習と添削
5	3和音基本形の連結、課題演習と添削
6	3和音基本形の連結、課題演習と添削
7	3和音基本形の連結、課題演習と添削
8	3和音基本形の連結、課題演習と添削
9	3和音基本形の連結、課題演習と添削
10	3和音基本形の連結、課題演習と添削
11	3和音基本形の連結、課題演習と添削
12	3和音基本形の連結、課題演習と添削
13	3和音基本形の連結、課題演習と添削
14	3和音基本形の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	3和音第1転回形の配置と連結、課題演習と添削
18	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
19	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
20	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
21	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
22	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
23	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
24	3和音第2転回形の配置と連結、課題演習と添削
25	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
26	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
27	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
28	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
29	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎和声法1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	田坂　千禎、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽を志す者にとって和声法の学習は不可欠です。同時に響く数個の音の組み合わせとその連結の技法を修得することで、作曲や演奏の学習に生かすことを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は3和音基本形の連結、後期は3和音第2転回形の連結までを範囲とし、バス課題の形で学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内での添削	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	和声　理論と実習1		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎　他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員がオルガニストとしての演奏経験を生かし、和音の連結法を指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	3和音基本形の配置と連結、課題演習と添削
3	3和音基本形の連結、課題演習と添削
4	3和音基本形の連結、課題演習と添削
5	3和音基本形の連結、課題演習と添削
6	3和音基本形の連結、課題演習と添削
7	3和音基本形の連結、課題演習と添削
8	3和音基本形の連結、課題演習と添削
9	3和音基本形の連結、課題演習と添削
10	3和音基本形の連結、課題演習と添削
11	3和音基本形の連結、課題演習と添削
12	3和音基本形の連結、課題演習と添削
13	3和音基本形の連結、課題演習と添削
14	3和音基本形の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	3和音第1転回形の配置と連結、課題演習と添削
18	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
19	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
20	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
21	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
22	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
23	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
24	3和音第2転回形の配置と連結、課題演習と添削
25	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
26	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
27	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
28	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
29	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎和声法1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	下石坂　徹、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽を志す者にとって和声法の学習は不可欠です。同時に響く数個の音の組み合わせとその連結の技法を修得することで、作曲や演奏の学習に生かすことを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は3和音基本形の連結、後期は3和音第2転回形の連結までを範囲とし、バス課題の形で学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内での添削	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	和声　理論と実習1		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎　他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員が作曲家としての活動経験を生かし、和音の連結法を指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	3和音基本形の配置と連結、課題演習と添削
3	3和音基本形の連結、課題演習と添削
4	3和音基本形の連結、課題演習と添削
5	3和音基本形の連結、課題演習と添削
6	3和音基本形の連結、課題演習と添削
7	3和音基本形の連結、課題演習と添削
8	3和音基本形の連結、課題演習と添削
9	3和音基本形の連結、課題演習と添削
10	3和音基本形の連結、課題演習と添削
11	3和音基本形の連結、課題演習と添削
12	3和音基本形の連結、課題演習と添削
13	3和音基本形の連結、課題演習と添削
14	3和音基本形の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	3和音第1転回形の配置と連結、課題演習と添削
18	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
19	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
20	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
21	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
22	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
23	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
24	3和音第2転回形の配置と連結、課題演習と添削
25	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
26	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
27	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
28	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
29	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎和声法1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	中本　芽久美、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽を志す者にとって和声法の学習は不可欠です。同時に響く数個の音の組み合わせとその連結の技法を修得することで、作曲や演奏の学習に生かすことを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は3和音基本形の連結、後期は3和音第2転回形の連結までを範囲とし、バス課題の形で学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内での添削	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	和声　理論と実習1		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎　他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員が作曲家としての活動経験を生かし、和音の連結法を指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	3和音基本形の配置と連結、課題演習と添削
3	3和音基本形の連結、課題演習と添削
4	3和音基本形の連結、課題演習と添削
5	3和音基本形の連結、課題演習と添削
6	3和音基本形の連結、課題演習と添削
7	3和音基本形の連結、課題演習と添削
8	3和音基本形の連結、課題演習と添削
9	3和音基本形の連結、課題演習と添削
10	3和音基本形の連結、課題演習と添削
11	3和音基本形の連結、課題演習と添削
12	3和音基本形の連結、課題演習と添削
13	3和音基本形の連結、課題演習と添削
14	3和音基本形の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	3和音第1転回形の配置と連結、課題演習と添削
18	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
19	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
20	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
21	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
22	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
23	3和音第1転回形の連結、課題演習と添削
24	3和音第2転回形の配置と連結、課題演習と添削
25	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
26	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
27	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
28	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
29	3和音第2転回形の連結、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎和声法2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	田坂　千禎、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎和声法1（初級）に続く授業です。4和音としての属7和音・ドッペル・ドミナント和音・副属7和音の使い方を修得し、作曲や演奏へ生かしながら、音楽の更なる理解を深めることを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
基礎和声法1に引き続き、ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は属7和音の連結、後期はドッペルドミナント和音、準固有和音、副属7和音の連結までを範囲とし、バス課題の形で学習します。折に触れて、ソプラノ課題、非和声音の扱い方も学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期試験	40
授業内添削	20
後期試験	40

教科書

教科書1	和声　理論と実習 II		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員がオルガニストとしての演奏経験を生かし指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	属7和音の配置と連結、課題演習と添削
3	属7和音の連結、課題演習と添削
4	属7和音の連結、課題演習と添削
5	属7和音の連結、課題演習と添削
6	属7和音の連結、課題演習と添削
7	属7和音の連結、課題演習と添削
8	属7和音の連結、課題演習と添削
9	属7和音の連結、課題演習と添削
10	属7和音の連結、課題演習と添削
11	属7和音の連結、課題演習と添削
12	属7和音の連結、課題演習と添削
13	属7和音の連結、課題演習と添削
14	属7和音の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	ドッペルドミナント和音の配置と連結、課題演習と添削
18	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
19	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
20	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
21	準固有和音の配置と連結、課題演習と添削
22	準固有和音の連結、課題演習と添削
23	副属7和音の連結、課題演習と添削
24	副属7和音の連結、課題演習と添削
25	副属7和音の連結、課題演習と添削
26	学習した全ての和音を含む連結、課題演習と添削
27	学習した全ての和音を含む連結、課題演習と添削
28	ソプラノ課題、課題演習と添削
29	ソプラノ課題、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎和声法2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	中本　芽久美、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎和声法1（初級）に続く授業です。4和音としての属7和音・ドッペル・ドミナント和音・副属7和音の使い方を修得し、作曲や演奏へ生かしながら、音楽の更なる理解を深めることを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
基礎和声法1に引き続き、ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は属7和音の連結、後期はドッペルドミナント和音、準固有和音、副属7和音の連結までを範囲とし、バス課題の形で学習します。折に触れて、ソプラノ課題、非和声音の扱い方も学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内での添削	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	和声　理論と実習 II		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員が作曲家としての活動経験を生かし、借用和音の使い方を指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	属7和音の配置と連結、課題演習と添削
3	属7和音の連結、課題演習と添削
4	属7和音の連結、課題演習と添削
5	属7和音の連結、課題演習と添削
6	属7和音の連結、課題演習と添削
7	属7和音の連結、課題演習と添削
8	属7和音の連結、課題演習と添削
9	属7和音の連結、課題演習と添削
10	属7和音の連結、課題演習と添削
11	属7和音の連結、課題演習と添削
12	属7和音の連結、課題演習と添削
13	属7和音の連結、課題演習と添削
14	属7和音の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	ドッペルドミナント和音の配置と連結、課題演習と添削
18	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
19	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
20	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
21	準固有和音の配置と連結、課題演習と添削
22	準固有和音の連結、課題演習と添削
23	副属7和音の連結、課題演習と添削
24	副属7和音の連結、課題演習と添削
25	副属7和音の連結、課題演習と添削
26	学習した全ての和音を含む連結、課題演習と添削
27	学習した全ての和音を含む連結、課題演習と添削
28	ソプラノ課題、課題演習と添削
29	ソプラノ課題、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎和声法2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	河合　摂子、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎和声法1（初級）に続く授業です。4和音としての属7和音・ドッペル・ドミナント和音・副属7和音の使い方を修得し、作曲や演奏へ生かしながら、音楽の更なる理解を深めることを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。基礎和声法1に引き続き、ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は属7和音の連結、後期はドッペルドミナント和音、準固有和音、副属7和音の連結までを範囲とし、バス課題の形で学習します。折に触れて、ソプラノ課題、非和声音の扱い方も学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内での添削	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	和声　理論と実習 II		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員が作曲家としての活動経験を生かし、借用和音の使い方を指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	属7和音の配置と連結、課題演習と添削
3	属7和音の連結、課題演習と添削
4	属7和音の連結、課題演習と添削
5	属7和音の連結、課題演習と添削
6	属7和音の連結、課題演習と添削
7	属7和音の連結、課題演習と添削
8	属7和音の連結、課題演習と添削
9	属7和音の連結、課題演習と添削
10	属7和音の連結、課題演習と添削
11	属7和音の連結、課題演習と添削
12	属7和音の連結、課題演習と添削
13	属7和音の連結、課題演習と添削
14	属7和音の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	ドッペルドミナント和音の配置と連結、課題演習と添削
18	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
19	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
20	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
21	準固有和音の配置と連結、課題演習と添削
22	準固有和音の連結、課題演習と添削
23	副属7和音の連結、課題演習と添削
24	副属7和音の連結、課題演習と添削
25	副属7和音の連結、課題演習と添削
26	学習した全ての和音を含む連結、課題演習と添削
27	学習した全ての和音を含む連結、課題演習と添削
28	ソプラノ課題、課題演習と添削
29	ソプラノ課題、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎和声法2	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	下石坂　徹、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎和声法1（初級）に続く授業です。4和音としての属7和音・ドッペル・ドミナント和音・副属7和音の使い方を修得し、作曲や演奏へ生かしながら、音楽の更なる理解を深めることを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。基礎和声法1に引き続き、ソプラノ、アルト、テノール、バスの4声体による和音の連結を学習します。前期は属7和音の連結、後期はドッペルドミナント和音、準固有和音、副属7和音の連結までを範囲とし、バス課題の形で学習します。折に触れて、ソプラノ課題、非和声音の扱い方も学びます。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃より色々な和音の響きに興味を持ち、様々な楽曲の中での和音の使われ方に接しておくことが望ましい。毎回の授業で実施した和声課題を自身でピアノで弾いて、響きを確認しておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業内での添削	20
前期授業内小テスト	40
後期授業内小テスト	40

教科書

教科書1	和声　理論と実習 II		
出版社名	音楽之友社	著者名	池内友次郎 他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
教員が作曲家としての活動経験を生かし、借用和音の使い方を指導します。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	導入
2	属7和音の配置と連結、課題演習と添削
3	属7和音の連結、課題演習と添削
4	属7和音の連結、課題演習と添削
5	属7和音の連結、課題演習と添削
6	属7和音の連結、課題演習と添削
7	属7和音の連結、課題演習と添削
8	属7和音の連結、課題演習と添削
9	属7和音の連結、課題演習と添削
10	属7和音の連結、課題演習と添削
11	属7和音の連結、課題演習と添削
12	属7和音の連結、課題演習と添削
13	属7和音の連結、課題演習と添削
14	属7和音の連結、課題演習と添削
15	前期のまとめと試験
16	前期の復習
17	ドッペルドミナント和音の配置と連結、課題演習と添削
18	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
19	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
20	ドッペルドミナント和音の連結、課題演習と添削
21	準固有和音の配置と連結、課題演習と添削
22	準固有和音の連結、課題演習と添削
23	副属7和音の連結、課題演習と添削
24	副属7和音の連結、課題演習と添削
25	副属7和音の連結、課題演習と添削
26	学習した全ての和音を含む連結、課題演習と添削
27	学習した全ての和音を含む連結、課題演習と添削
28	ソプラノ課題、課題演習と添削
29	ソプラノ課題、課題演習と添削
30	後期のまとめと試験

科目名	基礎作曲法	年次	3	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	河合　摂子、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎和声法 1・2 に続く授業で、中級（上級）和声法の知識、技法を学びます。更に、これまでの和声の知識を応用しながら作曲を経験してみることで、音楽への理解を一層深めることを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
基礎和声法 1・2 に続く段階の学習（非和声音、借用和音、転調を含む課題の演習・添削）を指導します。作曲課題としては、前期は、ソロ楽器（フルート、もしくは、ヴァイオリン）とピアノによるアンサンブル作品、後期は、アカペラの合唱曲を添削指導を受けながら作曲します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

作曲は時間のかかる作業ですから、少しずつ書き進めて毎回の添削に臨んでください。日頃より、色々な楽曲について、和音や楽器の使い方に目を向けながら親しんでおいてください。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
教室内添削	20
提出作曲作品（前期）	20
小試験（前期）	20
提出作曲作品（後期）	20
小試験（後期）	20

教科書

教科書1	和声　理論と実習 II		
出版社名	音楽之友社	著者名	島岡譲
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
教員が作曲家としての経験を生かし指導します。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	導入。基礎和声法 1･2 までの復習。
2	和声法演習：非和声音について。
3	和声法演習：非和声音について（続き）。
4	作曲演習：ソロ楽器とピアノのアンサンブルについて。
5	作曲演習：ソロ楽器とピアノのアンサンブルについて。（続き）ソロ楽器の特性について。
6	和声法演習：ドッペルドミナントについて。
7	和声法演習：ドッペルドミナントについて。（続き）
8	和声法演習：副属七をを含む課題。
9	和声法演習：副属七をを含む課題。（続き）
10	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
11	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
12	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
13	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
14	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
15	前期まとめ、小試験。
16	和声法演習：前期までの復習。
17	和声法演習：転調について。
18	和声法演習：転調について。（続き）
19	作曲演習：合唱曲について。誌プリント配布。
20	作曲演習：誌とメロディーの関係について。
21	作曲演習：混声 4 部合唱曲の書き方について。
22	和声法演習：転調を含む課題の添削。
23	和声法演習：転調を含む課題の添削。（続き）
24	和声法演習：総合復習。
25	作曲演習：合唱曲の添削指導。
26	作曲演習：合唱曲の添削指導。
27	作曲演習：合唱曲の添削指導。
28	作曲演習：合唱曲の添削指導。
29	作曲演習：合唱曲の添削指導。
30	後期まとめ、小試験。

科目名	基礎作曲法	年次	3	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	下石坂　徹、田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

基礎和声法 1・2 に続く授業で、中級（上級）和声法の知識、技法を学びます。更に、これまでの和声の知識を応用しながら作曲を経験してみることで、音楽への理解を一層深めることを目的とします。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。
基礎和声法 1・2 に続く段階の学習（非和声音、借用和音、転調を含む課題の演習・添削）を指導します。作曲課題としては、前期は、ソロ楽器（フルート、もしくは、ヴァイオリン）とピアノによるアンサンブル作品、後期は、アカペラの合唱曲を添削指導を受けながら作曲します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

作曲は時間のかかる作業ですから、少しずつ書き進めて毎回の添削に臨んでください。日頃より、色々な楽曲について、和音や楽器の使い方に目を向けながら親しんでおいてください。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
教室内添削	20
提出作曲作品（前期）	20
小試験（前期）	20
提出作曲作品（後期）	20
小試験（後期）	20

教科書

教科書1	和声　理論と実習 II		
出版社名	音楽之友社	著者名	島岡譲
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
教員が作曲家としての経験を生かし、和声法を生かしながらの作曲の基礎を指導します。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	導入。基礎和声法 1・2 までの復習。
2	和声法演習：非和声音について。
3	和声法演習：非和声音について（続き）。
4	作曲演習：ソロ楽器とピアノのアンサンブルについて。
5	作曲演習：ソロ楽器とピアノのアンサンブルについて。（続き）ソロ楽器の特性について。
6	和声法演習：ドッペルドミナントについて。
7	和声法演習：ドッペルドミナントについて。（続き）
8	和声法演習：副属七をを含む課題。
9	和声法演習：副属七をを含む課題。（続き）
10	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
11	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
12	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
13	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
14	作曲演習：ソロ楽器とピアノのためのアンサンブル作品の添削指導。
15	前期まとめ、小試験。
16	和声法演習：前期までの復習。
17	和声法演習：転調について。
18	和声法演習：転調について。（続き）
19	作曲演習：合唱曲について。誌プリント配布。
20	作曲演習：誌とメロディーの関係について。
21	作曲演習：混声 4 部合唱曲の書き方について。
22	和声法演習：転調を含む課題の添削。
23	和声法演習：転調を含む課題の添削。（続き）
24	和声法演習：総合復習。
25	作曲演習：合唱曲の添削指導。
26	作曲演習：合唱曲の添削指導。
27	作曲演習：合唱曲の添削指導。
28	作曲演習：合唱曲の添削指導。
29	作曲演習：合唱曲の添削指導。
30	後期まとめ、小試験。

科目名	鍵盤和声法	年次	3	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	田坂　千禎、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

鍵盤和声法(キーボードハーモニー)は、ピアノを中心とした鍵盤楽器で右手のメロディーに左手の伴奏をつけるための和声(ハーモニー)と和音(コード)の実用的な音楽的応用の理論と演奏技法の習得の演習です。音楽現場や教育現場で必要に応じてメロディーから充実した音楽に仕上げられるようにします。

授業概要

和声法のバス課題をよく理解し、鍵盤上でソプラノ課題を学習して、メロディーの和音設定をすることにつなげます。そして和音付けを考えながら弾いたり、コードネームの学習、引き歌い、移調奏をするなど総合的かつ実用的に学習します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

教科書のメロディ課題は世界の古今の音楽を使っています。歌ったりピアノで弾いたりして、カデンツの移調奏ともあわせて予習復習してください。また諸調の音階の構成音と和音の音の把握も重要です。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期授業内バス課題小テスト	20
前期授業内伴奏付け小テスト	20
後期授業内バス課題小テスト	20
後期授業内伴奏付け小テスト	20
主体的な授業参加	20

教科書

教科書1	はじめてのソルフェージュ５　キーボード・ハーモニー		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	吉川和夫・舟橋三千子他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
オルガニスト、作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、演奏表現に不可欠な重要な点を指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	和音進行法と伴奏付け Step.1　ＩとＶ
2	和音進行法と伴奏付け Step.1　ＩとＶ　更に多くの課題で学習
3	和音の構成法と名称について
4	和音の構成法と名称について コードネームの説明、理解と練習。28 週まで適宜演習　(ポピュラー音楽課題を含む)
5	Step.2　Ⅳ
6	Step.2　Ⅳ　更に多くの課題で学習
7	Step.3　Ｉの第２転回形と　Ⅴ
8	Step.9 より　Ｉの第１転回形
9	非和声音について
10	Step.4　属７の和音
11	Step.6　Ⅱ、Ⅱの第１転回形
12	Step.7　Ⅵ
13	復習と移調練習
14	バス進行の和音付け移調課題と伴奏つきメロディの移調実技学習と小テスト
15	メロディーの伴奏付け実技学習と小テスト
16	借用和音について Step.5　借用和音その１
17	借用和音について Step.5　借用和音その１　更に多くの課題で学習
18	Step.8　借用和音その２
19	Step.8　借用和音その２　更に多くの課題で学習
20	Step.9　Ⅳの第1転回形、Ⅴの第1転回形
21	Step.9　Ⅳの第1転回形、Ⅴの第1転回形　更に多くの課題で学習
22	Step.10　Ⅳの第２転回形、Ⅴの第２転回形
23	Step.11　属７の転回形
24	Step. 11　属７の転回形　更に多くの課題で学習
25	Step.12　借用和音の転回形
26	Step. 12　借用和音の転回形　更に多くの課題で学習
27	Step.13　準固有和音
28	Step.14　転調、中学校・高校教材の復習(p42、50、51、92、93、102、104)
29	バス進行の和音付け移調課題と伴奏つきメロディの移調実技学習と小テストと復習

30	メロディの伴奏付け実技学習と小テスト	

科目名	鍵盤和声法	年次	3	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

鍵盤和声法(キーボードハーモニー)は、ピアノを中心とした鍵盤楽器で右手のメロディーに左手の伴奏をつけるための和声(ハーモニー)と和音(コード)の実用的な音楽的応用の理論と演奏技法の習得の演習です。音楽現場や教育現場で必要に応じてメロディーから充実した音楽に仕上げられるようにします。

授業概要

和声法のバス課題をよく理解し、鍵盤上でソプラノ課題を学習して、メロディーの和音設定をすることにつなげます。そして和音付けを考えながら弾いたり、コードネームの学習、引き歌い、移調奏をするなど総合的かつ実用的に学習します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

教科書のメロディ課題は世界の古今の音楽を使っています。歌ったりピアノで弾いたりして、カデンツの移調奏ともあわせて予習復習してください。また諸調の音階の構成音と和音の音の把握も重要です。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期授業内バス課題小テスト	20
前期授業内伴奏付け小テスト	20
後期授業内バス課題小テスト	20
後期授業内伴奏付け小テスト	20
主体的な授業参加	20

教科書

教科書1	はじめてのソルフェージュ５　キーボード・ハーモニー		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	吉川和夫・舟橋三千子他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
作・編曲家、ピアノ指導者としての視点から、徐々により良い音楽に仕上げるように指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	和音進行法と伴奏付け Step.1　ＩとＶ
2	和音進行法と伴奏付け Step.1　ＩとＶ　更に多くの課題で学習
3	和音の構成法と名称について
4	和音の構成法と名称について コードネームの説明、理解と練習。28 週まで適宜演習　(ポピュラー音楽課題を含む)
5	Step.2　Ⅳ
6	Step.2　Ⅳ　更に多くの課題で学習
7	Step.3　Ｉの第２転回形と　Ⅴ
8	Step.9 より　Ｉの第１転回形
9	非和声音について
10	Step.4　属７の和音
11	Step.6　Ⅱ、Ⅱの第１転回形
12	Step.7　Ⅵ
13	復習と移調練習
14	バス進行の和音付け移調課題と伴奏つきメロディの移調実技学習と小テスト
15	メロディーの伴奏付け実技学習と小テスト
16	借用和音について Step.5　借用和音その１
17	借用和音について Step.5　借用和音その１　更に多くの課題で学習
18	Step.8　借用和音その２
19	Step.8　借用和音その２　更に多くの課題で学習
20	Step.9　Ⅳの第1転回形、Ⅴの第1転回形
21	Step.9　Ⅳの第1転回形、Ⅴの第1転回形　更に多くの課題で学習
22	Step.10　Ⅳの第２転回形、Ⅴの第２転回形
23	Step.11　属７の転回形
24	Step. 11　属７の転回形　更に多くの課題で学習
25	Step.12　借用和音の転回形
26	Step. 12　借用和音の転回形　更に多くの課題で学習
27	Step.13　準固有和音
28	Step.14　転調、中学校・高校教材の復習(p42、50、51、92、93、102、104)
29	バス進行の和音付け移調課題と伴奏つきメロディの移調実技学習と小テストと復習

30	メロディの伴奏付け実技学習と小テスト	

科目名	鍵盤和声法	年次	3	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	中本　芽久美、河合　摂子				
クラス名					

授業目的と到達目標

鍵盤和声法(キーボードハーモニー)は、ピアノを中心とした鍵盤楽器で右手のメロディーに左手の伴奏をつけるための和声(ハーモニー)と和音(コード)の実用的な音楽的応用の理論と演奏技法の習得の演習です。音楽現場や教育現場で必要に応じてメロディーから充実した音楽に仕上げられるようにします。

授業概要

和声法のバス課題をよく理解し、鍵盤上でソプラノ課題を学習して、メロディーの和音設定をすることにつなげます。そして和音付けを考えながら弾いたり、コードネームの学習、引き歌い、移調奏をするなど総合的かつ実用的に学習します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

教科書のメロディ課題は世界の古今の音楽を使っています。歌ったりピアノで弾いたりして、カデンツの移調奏ともあわせて予習復習してください。また諸調の音階の構成音と和音の音の把握も重要です。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
前期授業内バス課題小テスト	20
前期授業内伴奏付け小テスト	20
後期授業内バス課題小テスト	20
後期授業内伴奏付け小テスト	20
主体的な授業参加	20

教科書

教科書1	はじめてのソルフェージュ５　キーボード・ハーモニー		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	吉川和夫・舟橋三千子他
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL
特記事項
教員実務経験
作・編曲家、ピアノ指導者、高等学校音楽コース講師としての視点から、演奏表現に不可欠な重要な点を指導する。
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	和音進行法と伴奏付け Step.1　ＩとＶ
2	和音進行法と伴奏付け Step.1　ＩとＶ　更に多くの課題で学習
3	和音の構成法と名称について
4	和音の構成法と名称について コードネームの説明、理解と練習。28 週まで適宜演習　(ポピュラー音楽課題を含む)
5	Step.2　Ⅳ
6	Step.2　Ⅳ　更に多くの課題で学習
7	Step.3　Ｉの第２転回形と　Ⅴ
8	Step.9 より　Ｉの第１転回形
9	非和声音について
10	Step.4　属７の和音
11	Step.6　Ⅱ、Ⅱの第１転回形
12	Step.7　Ⅵ
13	復習と移調練習
14	バス進行の和音付け移調課題と伴奏つきメロディの移調実技学習と小テスト
15	メロディーの伴奏付け実技学習と小テスト
16	借用和音について Step.5　借用和音その１
17	借用和音について Step.5　借用和音その１　更に多くの課題で学習
18	Step.8　借用和音その２
19	Step.8　借用和音その２　更に多くの課題で学習
20	Step.9　Ⅳの第1転回形、Ⅴの第1転回形
21	Step.9　Ⅳの第1転回形、Ⅴの第1転回形　更に多くの課題で学習
22	Step.10　Ⅳの第２転回形、Ⅴの第２転回形
23	Step.11　属７の転回形
24	Step. 11　属７の転回形　更に多くの課題で学習
25	Step.12　借用和音の転回形
26	Step. 12　借用和音の転回形　更に多くの課題で学習
27	Step.13　準固有和音
28	Step.14　転調、中学校・高校教材の復習(p42、50、51、92、93、102、104)
29	バス進行の和音付け移調課題と伴奏つきメロディの移調実技学習と小テストと復習

30	メロディの伴奏付け実技学習と小テスト	

科目名	コード理論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	山口　聖代				
クラス名					

授業目的と到達目標
ポピュラー音楽に於いて、演奏、作曲、編曲などに必要な、基本的音楽理論の履修。 コード・プログレッションを中心に学習。 Exercise を取り入れながら、実践に応用できる事を目指す。

授業概要
対面授業音程、スケール、調号などの基本の確認。 14 種の Tetrad Chord. Tension Note。Diatonic Chord。 Ⅱm7＿Ⅴ7。 循環・逆循コード進行。Substituted Chord。 Avoid Note。音楽用語・記号。など

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
各自、Text、空五線譜、筆記用具持参の事。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常点	30
授業内小テスト。学年末小テスト	70

教科書

教科書1	現代のポピュラー・ミュージック・セオリー		
出版社名	サーベル社	著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
授業は、クラシックからポップスまで幅広いジャンルの作編曲やピアノ演奏を行なう教員が、自身の音楽経験やアレンジ能力を活かして、実演を交えながら学生個々のレベルに合わせた指導を行う。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	カテスト。 年間カリキュラム概要説明。
2	Over-Tone。 Low-Interval-Limited。 Maj-Scale。 Min-Scale 3種　その他ポピュラー音楽でよく使用されるScaleの紹介。
3	ポピュラー音楽： ジャンル、スタイル、アーティスト、等の紹介。 Triad Chord： maj-Triad, min-Triad
4	Tetrad ： Maj7th, Dominant7th, min-Maj7th, min7th
5	Tetrad： Exercise。 5th変化typeのchord ①:diminished7th, Augumented （Aug-Maj7th, Aug-7th）
6	th変化typeのchord ②:Halh-diminished7th, Dominant7th, Flatted 5th, 掛留 :Dominant7th suspended 4th 付加 :付加6、 付加9（add 9th）
7	Tetrad 全14種 Exercise （筆記＆聴音）
8	転回形の説明。 ポピュラー音楽で使用する音楽用語・記号①
9	ポピュラー音楽で使用する音楽用語・記号②
10	Diatonic Chord Chord Function（Tonic, Dominant, sub-dominant, sub-dominant minor）
11	Dominant Motion＆Tri-Tone Leading-Note5th-Down Motion
12	Ⅴ7≒♭Ⅱ7 （裏Chord） Ⅱm7-Ⅴ7 （Two-Five） Deceptive-Cadence
13	Chord Progress Analyze
14	Secondary Dominant （副属七、借用属七）
15	前期学習項目総括及び、授業内小テスト
16	循環・逆循環 Chord進行
17	色々な終止形 Cliche／Double Cliche
18	Tension Note （Natural, Altered）
19	hord Typeと Tension Note
20	Tension Note 総合Exercise
21	Substituted Chord①
22	Substituted Chord②
23	Substituted Chord③
24	Reharmonize 実例
25	Chord Tone Non Chord Tone Avoid Note

26	後期　総合Exercise　及び、解説
27	ポピュラー音楽史　（アメリカのポピュラー・ミュージック）概論基礎
28	学年末授業内小テスト　模擬試験　及び、解説
29	学年末学習項目総括。及び、学年末授業内小テスト　試験
30	授業内小テスト　試験　解答と解説

科目名	コード理論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	小林　淑子				
クラス名					

授業目的と到達目標
ポピュラー音楽に於いて、演奏、作曲、編曲などに必要な、基本的音楽理論の履修。 コード・プログレッションを中心に学習。 Exercise を取り入れながら、実践に応用できる事を目指す。

授業概要
対面授業音程、スケール、調号などの基本の確認。 14 種の Tetrad Chord. Tension Note。Diatonic Chord。 Ⅱm7＿Ⅴ7。 循環・逆循コード進行。Substituted Chord。 Avoid Note。音楽用語・記号。など

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
各自、Text、空五線譜、筆記用具持参の事。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常点	30
授業内小テスト。学年末小テスト	70

教科書

教科書1	現代のポピュラー・ミュージック・セオリー		
出版社名	サーベル社	著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
《実務経験》作編曲家としての教員が、多数の作品制作の経験により、作曲・編曲への基礎知識・制作力を修得させる

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	カテスト。 年間カリキュラム概要説明。
2	Over-Tone。 Low-Interval-Limited。 Maj-Scale。 Min-Scale 3種　その他ポピュラー音楽でよく使用されるScaleの紹介。
3	ポピュラー音楽： ジャンル、スタイル、アーティスト、等の紹介。 Triad Chord： maj-Triad, min-Triad
4	Tetrad ： Maj7th, Dominant7th, min-Maj7th, min7th
5	Tetrad： Exercise。 5th変化typeのchord ①:diminished7th, Augumented （Aug-Maj7th, Aug-7th）
6	th変化typeのchord ②:Halh-diminished7th, Dominant7th, Flatted 5th, 掛留 :Dominant7th suspended 4th 付加 :付加6、 付加9（add 9th）
7	Tetrad 全14種 Exercise （筆記＆聴音）
8	転回形の説明。 ポピュラー音楽で使用する音楽用語・記号①
9	ポピュラー音楽で使用する音楽用語・記号②
10	Diatonic Chord Chord Function（Tonic, Dominant, sub-dominant, sub-dominant minor）
11	Dominant Motion＆Tri-Tone Leading-Note 5th-Down Motion
12	Ⅴ7≒♭Ⅱ7 （裏Chord） Ⅱm7-Ⅴ7 （Two-Five） Deceptive-Cadence
13	Chord Progress Analyze
14	Secondary Dominant （副属七、借用属七）
15	前期学習項目総括及び、授業内小テスト
16	循環・逆循環 Chord進行
17	色々な終止形 Cliche／Double Cliche
18	Tension Note （Natural, Altered）
19	hord Typeと Tension Note
20	Tension Note 総合Exercise
21	Substituted Chord①
22	Substituted Chord②
23	Substituted Chord③
24	Reharmonize 実例
25	Chord Tone Non Chord Tone

	Avoid Note
26	後期 総合Exercise 及び、解説
27	ポピュラー音楽史 （アメリカのポピュラー・ミュージック）概論基礎
28	学年末授業内小テスト 模擬試験 及び、解説
29	学年末学習項目総括。及び、学年末授業内小テスト 試験
30	授業内小テスト 試験 解答と解説

科目名	コード理論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	木村　知之				
クラス名					

授業目的と到達目標
ポピュラー音楽に於いて、演奏、作曲、編曲などに必要な、基本的音楽理論の履修。 コード・プログレッションを中心に学習。 Exercise を取り入れながら、実践に応用できる事を目指す。

授業概要
対面授業音程、スケール、調号などの基本の確認。 14 種の Tetrad Chord. Tension Note。Diatonic Chord。 Ⅱm7＿Ⅴ7。 循環・逆循コード進行。Substituted Chord。 Avoid Note。音楽用語・記号。など

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
各自、Text、空五線譜、筆記用具持参の事。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常点	30
授業内小テスト。学年末小テスト	70

教科書

教科書1	現代のポピュラー・ミュージック・セオリー		
出版社名	サーベル社	著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	カテスト。 年間カリキュラム概要説明。
2	Over-Tone。 Low-Interval-Limited。 Maj-Scale。 Min-Scale 3種　その他ポピュラー音楽でよく使用されるScaleの紹介。
3	ポピュラー音楽： ジャンル、スタイル、アーティスト、等の紹介。 Triad Chord： maj-Triad, min-Triad
4	Tetrad ： Maj7th, Dominant7th, min-Maj7th, min7th
5	Tetrad： Exercise。 5th変化typeのchord ①：diminished7th, Augumented （Aug-Maj7th, Aug-7th）
6	th変化typeのchord ②：Halh-diminished7th, Dominant7th, Flatted 5th, 掛留 ：Dominant7th suspended 4th 付加 ：付加6、 付加9（add 9th）
7	Tetrad 全14種 Exercise （筆記＆聴音）
8	転回形の説明。 ポピュラー音楽で使用する音楽用語・記号①
9	ポピュラー音楽で使用する音楽用語・記号②
10	Diatonic Chord Chord Function（Tonic, Dominant, sub-dominant, sub-dominant minor）
11	Dominant Motion＆Tri-Tone Leading-Note 5th-Down Motion
12	Ⅴ7≒♭Ⅱ7 （裏Chord） Ⅱm7-Ⅴ7 （Two-Five） Deceptive-Cadence
13	Chord Progress Analyze
14	Secondary Dominant （副属七、借用属七）
15	前期学習項目総括及び、授業内小テスト
16	循環・逆循環 Chord進行
17	色々な終止形 Cliche／Double Cliche
18	Tension Note （Natural, Altered）
19	hord Typeと Tension Note
20	Tension Note 総合Exercise
21	Substituted Chord①
22	Substituted Chord②
23	Substituted Chord③
24	Reharmonize 実例
25	Chord Tone Non Chord Tone Avoid Note
26	後期 総合Exercise 及び、解説

27	ポピュラー音楽史 （アメリカのポピュラー・ミュージック）概論基礎	
28	学年末授業内小テスト　模擬試験　及び、解説	
29	学年末学習項目総括。及び、学年末授業内小テスト　試験	
30	授業内小テスト　試験　解答と解説	

科目名	コード理論1	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	松尾　泰伸				
クラス名	【AD クラス】				

授業目的と到達目標

和音のコード化を知ることで、音楽情報伝達手段の多様性を習得する。現代のあらゆる音楽形態への、柔軟かつ的確・スピーディーな適応・対応が図れる様になる為に。
コード表記の利便性への理解を深める。

授業概要

対面授業音程の復習。コードネームの必要性と利便性について。
現場レベルで通用する、全てのコードネームの仕組み。
クラシック音楽等、既成曲へのコード表記。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

音楽理論（楽典・通論等）の、スケール・調号・音程・和音までの復習。
講義は30回全部が関連付けられて進んでいくので、毎回の授業内容をよく理解把握して進めていくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
1年を通して授業中に実施される、演習課題の成績評価	70
授業に取り組む姿勢	30

教科書

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
実務経験：作曲家・ピアニストとして多くの作曲・編曲・演奏経験を持つ担当教員が、コードによる有益な使用法を習得させる。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】音程 復習 コード理論概要（必要性・利便性 etc.）
2	【対面】コードの仕組み 音程 単音程 復習
3	【対面】コードの仕組み2 コードの表記 音程 複音程 復習 長音階上の3和音
4	【対面】コードの仕組み3 コードの表記の仕組み 音程まとめ 演習
5	【対面】コード 3和音（トライアド） メジャーダイアトニック メジャーコードとマイナーコードの関係
6	【対面】コード 3和音（トライアド） ♯♭の付いたコード
7	【対面】コード 3和音（トライアド）まとめ 演習
8	【対面】コード 4和音(7th)
9	【対面】7th の和音 M7 m7 7
10	【対面】7th の和音 M7 m7 7 ♯♭の付いたコード
11	【対面】7th の和音 まとめ 演習
12	【対面】7th の和音のヴァリエーション （♭5）（♯5） mM7
13	【対面】特殊なコード aug aug7 dim dim7
14	【対面】特殊なコード sus4 7sus4
15	【対面】特殊なコード add2 add9 6 69 omit
16	【対面】テンションコードの仕組み
17	【対面】テンションコード 9th
18	【対面】テンションコード 9th 演習
19	【対面】テンションコード 11th 演習
20	【対面】テンションコード 13th 演習
21	【対面】3和音（トライアド） 4和音(7th) 特殊なコード テンションコード まとめ
22	【対面】3和音（トライアド） 4和音(7th) 特殊なコード テンションコード まとめ 演習
23	【対面】3和音（トライアド） 4和音(7th) 特殊なコード テンションコード まとめ 演習
24	【対面】オンコード 分数コード（転回形） ベース音が、Root（根音）以外の構成音のいずれかの場合
25	【対面】オンコード 分数コード（転回形） 演習
26	【対面】オンコード 分数コード（テンション系） ベース音が、上にのる和音の構成音以外の場合
27	【対面】オンコード 分数コード（テンション系） 演習
28	【対面】既成曲のコードネーム化
29	【対面】既成曲へのコードネーム付け
30	【対面】既成曲へのコードネーム付け

科目名	ポピュラー作・編曲法1	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	中村　正史				
クラス名					

授業目的と到達目標

ポピュラー作・編曲法　初級クラス。
ヴォーカル＋4リズム・アレンジ

授業概要

4リズム・スタイルの理解。
Vocal,Drums,Guitar,Bass,Keyboard(Piano)の楽器法及び記譜法の理解。 。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

各自、空五線譜、筆記用具持参の事。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
平常点	30
レポート提出課題の評価。	70

教科書

教科書1	特になし。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	現代のポピュラー・ミュージック・セオリー		
出版社名	サーベル社	著者名	中村正史
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員が作・編曲家としての経験を活かし、ポピュラー音楽の作・編曲法を習得させる。

教員実務経験
TV、Radio、での作編曲。アーティストへの楽曲提供。 スタジオワーク。ライヴ・コンサート活動。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	年間カリキュラム概要説明。 基礎的な音楽理論の復習
2	実力テスト／解答と解説
3	コード理論1の復習
4	コード理論1の復習
5	Vo＋4Rhythm①
6	Vo＋4Rhythm②
7	Vo＋4Rhythm③
8	Vo＋4Rhythm④
9	Vo＋4Rhythm⑤
10	Vo＋4Rhythm⑥
11	ベース・ライン
12	2声のハーモナイズ①
13	2声のハーモナイズ②
14	Transposeと移調楽器 Trumpet,Sax,etc.
15	前期学習項目総括。及び、総合Exercise
16	前期復習
17	ラテンパーカッション①
18	ラテンパーカッション②
19	ラテンパーカッション③
20	様々な音楽ジャンル①
21	様々な音楽ジャンル②
22	様々な音楽ジャンル③
23	reharmonize①
24	reharmonize②
25	reharmonize③
26	学年末提出課題の説明 （課題発表）実例紹介。
27	Analyze ①／楽曲分析 Jazz Standards
28	Analyze ②／楽曲分析 J-Pop
29	Analyze ③／楽曲分析 J-Pop
30	提出課題の添削。 作・編曲法①まとめ提出課題の添削。

科目名	ポピュラー作・編曲法1	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	小林　淑子				
クラス名					

授業目的と到達目標
ポピュラー音楽の 作・編曲に於いて必要となる基礎的な知識、メロディーライティング、ハーモナイズを学習。ポピュラー音楽の様々なジャンルを学び、4Rhythm の編曲を習得する。

授業概要
【対面授業】メロディーの作り方、発展の手法、またハーモナイズを学ぶ。 様々なコード進行に於いて、メロディーライン、ベースライン、コンピングなどを学ぶ。 カウンターライン、ハモリの書き方。 リハーモナイズ 様々な楽曲を分析 4Rhythm Arrange

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
空の五線紙、筆記具を持参

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業に取り組む姿勢	30
課題・授業内テスト	70

教科書

教科書1	現代のポピュラー・ミュージック・セオリー		
出版社名	サーベル社	著者名	中村正史
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
《実務経験》作編曲家としての教員が、多数の作品制作の経験により、作曲・編曲への基礎知識・制作力を修得させる
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	年間カリキュラムガイダンス① 基礎的な音楽理論①
2	年間カリキュラムガイダンス② 基礎的な音楽理論②
3	基本的なコード進行とメロディーライン①
4	基本的なコード進行とメロディーライン②
5	メロディーへのハーモナイズ(Basic)①
6	メロディーへのハーモナイズ(Basic)②
7	コードパターンにメロディーを作成①
8	コードパターンにメロディーを作成②
9	既成曲のアナリーゼにより、メロディー、ハーモニー等を考察する①
10	既成曲のアナリーゼにより、メロディー、ハーモニー等を考察する②
11	Bass Line と Counter Melody
12	ポピュラー楽曲に於ける 1Chorus の構成について。 メロディー、ハーモニーの特色。
13	1Chorus のメロディー、ハーモニーを作成、記譜。発表 ①
14	1Chorus のメロディー、ハーモニーを作成、記譜。発表 ②
15	前期のまとめと復習テスト
16	4Rhythm について、楽器と記譜①
17	4Rhythm について、楽器と記譜②
18	ポピュラー音楽のジャンル、リズムスタイル、特色①
19	ポピュラー音楽のジャンル、リズムスタイル、特色②
20	ポピュラー音楽のジャンル、リズムスタイル、特色③
21	Reharmonize 実習①
22	Reharmonize 実習②
23	イントロ&エンディング①
24	イントロ&エンディング②
25	アレンジのスケッチと組み立てについて
26	リズムセクション・4Rhythm のアレンジ①
27	リズムセクション・4Rhythm のアレンジ②
28	リズムセクション・4Rhythm のアレンジ(実習)③
29	リズムセクション・4Rhythm のアレンジ(実習)④
30	1 年のまとめとテスト

科目名	ポピュラー作・編曲法1	年次	2	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	小野田　享子				
クラス名					

授業目的と到達目標
ポピュラー音楽に於いて、演奏、作曲、編曲などに必要な、基本的音楽理論の履修。 コード・プログレッションを中心に学習。エクササイズを取り入れながら、実践に応用できる事を目指す。

授業概要
対面授業とする。音程、スケール、調号などの基本の確認。 実際の楽曲のコード進行の分析。実用的なコード進行を用いた簡単な作曲、代理コードを使用した編曲法の取得。 教員はバンドスタイルから、フルオーケストラの作編曲を行なっているプロのアレンジャーが指導する。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意
五線紙を持参対面授業とする。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業に取り組む姿勢	50
学期末試験	50

教科書

教科書1	現代のポピュラーミュージックセオリー		
出版社名	サーベル社	著者名	中村正史
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項
教員実務経験
授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	コードネーム、音程、スケール、音楽用語、記号など基礎の確認
2	コードネーム、音程、スケール、音楽用語、記号など基礎の確認
3	コードネーム、音程、スケール、音楽用語、記号など基礎の確認
4	全キーのトライアドコード、7th コード、テトラドコード
5	全キーのトライアドコード、7th コード、テトラドコード
6	全キーのテンションコード（9th,11th,13th)
7	テンションコード（9th,11th,13th)を使用した楽曲の分析
8	♭5、＃5のコード♭9th、＃9th のコード
9	Ⅱ－Ⅴ - 1のコード進行を用いた楽曲分析
10	Ⅱ－Ⅴ - 1のコード進行を用いた楽曲分析
11	コード理論に沿った調号判別の仕方
12	基礎的なブルース進行
13	基礎的なブルース進行
14	代理コードを用いたブルース進行（JAZZ ブルース）
15	代理コードを用いたブルース進行（JAZZ ブルース）
16	前期で学んだ内容の復習、確認
17	前期で学んだ内容の復習、確認
18	Roop を用いた楽曲のコード分析
19	Roop を用いた楽曲のコード分析
20	Roop を用いた楽曲のコード分析
21	循環コード使用の楽曲分析（Pops)
22	循環コード使用の楽曲分析(スタンダードジャズ）
23	循環コードの Variation
24	裏代理コードの理解
25	裏代理コードの理解
26	童謡など簡単なコード進行の楽曲のリハモナイズ
27	童謡など簡単なコード進行の楽曲のリハモナイズ
28	今までの内容を踏まえた楽曲制作（A メロ、B メロ、サビのコード進行制作）
29	今までの内容を踏まえた楽曲制作（A メロ、B メロ、サビのコード進行制作）
30	今までの内容を踏まえた楽曲制作（A メロ、B メロ、サビのコード進行制作）

科目名	コンポージング論	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	田中　久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標

クラシック音楽の作曲法に関する理論全般の解説と主要な作品について様々な角度からの楽曲構造分析を行い、音楽の実際を学びます。

授業概要

授業は「対面授業」で行います。色々な音楽作品に触れながら、楽典、和声法、楽式論、楽器論、管弦楽法の基本を学びつつ、クラシック音楽の広い理解を目指します。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

日頃よりクラシックの音楽作品に触れ、関心を高めておいてください。

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
総合評価（普段の授業への取り組み、レポート提出）	100

教科書

教科書1	適宜プリント教材を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験
教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして、クラシック作品の分析や作曲法を解説します。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	導入
2	舞曲
3	リズムと拍子の取り方
4	バレエ音楽
5	物語をオーケストラ曲で表現するということ
6	オーケストラの楽器
7	ベートーヴェン作品の考察
8	ピアノという楽器について
9	オペラについて ～作曲者から見た物語と音楽～
10	音楽の都、ウィーン。
11	バッハの音楽とパイプオルガン
12	協奏曲について。
13	指揮者について。
14	シューマンの音楽
15	ミュージカル映画鑑賞

科目名	音楽とテクノロジー	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 後期	形態	講義		
教員名	上野 航				
クラス名					

授業目的と到達目標

音楽に関わる様々なテクノロジーの在り方を作品や実例の分析を通して考察し、芸術とテクノロジーの結合について、 建学の精神における「創造性の奨励」に則り、将来にわたって継続的に考える姿勢を養う。

授業概要

主に 20 世紀に発展した科学技術と関わって生み出された新しい楽器と音楽について紹介し、それらが現代の私たちに何を示しているかを考察しつつ、今後のテクノロジー展開の方向性を模索するための考え方を学ぶ。

準備学修（予習・復習）・受講上の注意

成績評価方法・基準

種別	割合（%）
授業に取り組む姿勢	60
授業内ミニレポート	40

教科書

教科書1	配布・提示資料等		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	『コンピュータと音楽の世界』		
出版社名	東京：共立出版	著者名	志村哲、他（共著）
参考書名2	CD と LP レコード「音の始源を求めて」シリーズの解説書		
出版社名	サウンド3	著者名	志村哲（監修・解説執筆／編集）
参考書名3	『事典　世界音楽の本』		
出版社名	岩波書店	著者名	志村哲（共著）
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

コンピュータ音楽・電子音響音楽の制作、尺八演奏を行う教員が、制作の経験、および古典邦楽演奏者としての視点を活かして、多様な側面を持つ音楽とテクノロジーの関係性に対して、その起源や現代での受容のあり方も含めつつ、学生自身の創作や活動とのつながりを理解できるように指導を行う。

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	オリエンテーション：音楽とテクノロジーの関係
2	電子楽器の歴史的概観
3	20世紀初頭の電子楽器（1）
4	20世紀初頭の電子楽器（2）
5	演奏家のいらない音楽（1）：電子音楽
6	演奏家のいらない音楽（2）：空間音楽
7	演奏家のいらない音楽（3）：テープ音楽とコンピュータ音楽
8	再び必要になった演奏家（1）：電子音楽の生演奏
9	再び必要になった演奏家（2）：ポピュラー音楽におけるテクノロジーの役割
10	再び必要になった演奏家（3）：新しい楽器
11	記録メディアの変遷
12	アナログ／デジタルの概念
13	記録としての録音と創作としての録音
14	様々なコンテンツ上の音／音楽
15	まとめ：音楽とテクノロジーに関わる今後の展望